

所員

専任教員

時田アリソン TOKITA Alison

役職：所長

専門：音楽学・日本の語り物芸能

藤田 隆則 FUJITA Takanori

役職：教授

専門：民族音楽学

山田 智恵子 YAMADA Chieko

役職：教授

専門：音楽学・三味線音楽・義太夫節

田鍬 智志 TAKWA Satoshi

役職：准教授

専門：日本音楽史・民俗芸能

竹内 有一 TAKEUCHI Yuuichi

役職：准教授

専門：日本音楽史・近世邦楽

武内 恵美子 TAKENOUCHE Emiko

役職：准教授

専門：音楽学・日本音楽史・音楽思想史

客員教授

徳丸 吉彦 TOKUMARU Yoshihiko

専門：音楽学

竹本 駒之助 TAKEMOTO Komanosuke

専門：義太夫節

今藤 政太郎 IMAFUJI Masataro

専門：長唄

2017年4月より 安田登氏が客員教授に就任しました。

非常勤講師

梶丸 岳 KAJIMARU Gaku

担当：特別研究員

専門：文化人類学・民族音楽学

竹内 直 TAKEUCHI Nao

担当：特別研究員

専門：現代音楽論・日本近代洋楽史

中安 真理 NAKAYASU Mari (2016年4月新任)

担当：特別研究員

専門：美術史・音楽図像学

東 正子 HIGASHI Masako

担当：情報管理員

専門：デジタルコンテンツ制作、ネットワーク管理

非常勤嘱託員

齊藤 尚 SAITO Hisashi

担当：学芸員・司書

森 万由美 MORI Mayumi (2016年4月新任)

担当：司書

客員研究員

丹羽 幸江 NIWA Yukie

受入期間：2014年12月1日から2017年3月31日まで

所属：日本学術振興会特別研究員 (RPD)

研究課題：祝詞の音楽研究と能の楽譜研究

受入教員：藤田隆則

高橋 葉子 TAKAHASHI Yoko

受入期間：2014年12月1日から2017年3月31日まで

研究課題：能の略式演奏の歴史と現在

受入教員：藤田隆則

前島 美保 MAESHIMA Miho

受入期間：2015年10月1日から2017年11月9日まで

研究課題：歌舞伎囃子に関する劇書・伝書の研究

受入教員：竹内有一

大西 秀紀 ONISHI Hidenori

受入期間：2016年4月1日から2018年3月31日まで

研究課題：SPレコードの書誌的研究

受入教員：竹内有一

神津 武男 KOZU Takeo

受入期間：2016年4月1日から2017年3月31日まで

研究課題：人形浄瑠璃文案の近世後期上演記録データベース更新に係る追補的資料研究

受入教員：山田智恵子

学振受入研究員

丹羽幸江 NIWA Yukie

上記の通り

前島 美保 MAESHIMA Miho

上記の通り

共同研究員

計43名(所員を除く)。研究テーマ・氏名・所属先等は「活動報告1」に記した。

委託研究

委託者：上野正章

テーマ：明治後期『京都日出新聞』芸能記事のデータベース化

概要：京都市内で発行された『京都日出新聞』(現『京都新聞』の前身)の明治後期の芸能記事から、主に能楽関係の記事を調査研究、収集して、それをデータベース化する。研究成果の一部は、インターネットにより公開する。今年度は、明治40年より44年までの、能・狂言を中心とした芸能記事を対象とする。

展 観

会場：新研究棟 7階展観ブース

(1) 「日本の楽器」

平成27年8月16日(火)～平成29年1月20日(金)

内容：でんおん連続講座E「PENDULUM II 英語による日本音楽概論」の開催に際し、講座内で解説する日本の楽器を展示しました。

展示内の解説は日本語ですが、英語による展示解説を配布しました。

一部の楽器については無線LANにて音声データを配信し、各自の携帯端末で楽器の音を聴けるようにしました。



(2) 「常磐津正本の修復と書誌的研究—保存修復専攻とともに音楽研究の原点をつくる—

平成29年2月3日(金)～

内容：2015年、常磐津節家元より新出の常磐津節正本の初演本が発見されました。正本、とくに初演本は演奏と伝承のルーツを示す起点であり、学術研究の土台となる資料です。

しかしこの資料は虫損が甚だしく、開くことすらままなりません。この資料を百年後、千年後への良好な保全を果たすためには中損の修復が必要です。そこで、本学の大学院美術研究科保存科学専攻の宇野茂男教授と大学院生と共同で修復および研究をすることとなりました。

本展示では新出の常磐津節正本の概要と、2016年に実施した、修復の手順および作業の様子、修復作業に用いた道具などを展示しました。



(3) 「七弦琴の世界～江戸時代の琴文化嗜好～」

平成29年2月10日(金)～

内容：琴(七弦琴/古琴)は中国の伝統音楽・楽器で

す。「琴」の字はそもそも箱型の胴に7本の弦を張ったこの種の楽器を指しています。古来「琴」と呼ばれてきましたが、他の楽器と区別するために「七弦琴」と呼ばれるようにもなりました。近年中国では「古琴」とも呼ばれます。

琴は中国の神話に登場する神、伏羲が創造したとされ、少なくとも春秋時代（B.C.770～B.C.403）にはすでに演奏習慣があったことが『詩経』などの資料から伺えます。それ以降現在まで絶えることなく演奏され、愛好され続けてきました。

日本でも琴は平安時代と江戸時代に親しまれていました。本展観では、中国の琴文化の紹介と、江戸の琴文化の一例を紹介します。



出版物 一書籍一

『日本伝統音楽研究』第13号

京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター研究紀要、
京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター発行、
2016年6月30日、A4横組・縦組 222pp

内容：＜特集：伝音センター15周年＞

15年のあゆみを振り返り、展望する 時田アリソン
日本伝統音楽研究センター十五年史 東正子

＜論文＞

武内恵美子「弘前藩主の楽」

山田淳平「近世三方楽所の成立過程」

土田牧子「SPレコードに遺された小芝居の実態をめぐる一考察 一中村歌扇の録音における義太夫節（竹本）とセリフを例に」

時田アリソン「浪花節における口頭性―「太閤記」も

の場合―」

上野正章「藤原義江の演奏旅行から見る昭和2年秋の札幌、

盛岡、秋田における西洋音楽のローカライズについて」
梶丸岳「掛唄で歌われることはなにか 一計量テキスト分析による掛唄の話題抽出の試み一」

＜研究ノート＞

高橋葉子「江戸中期における謡曲音階論の形成 一岩井直恒の十段音法を考察する一」

遠藤徹「江戸時代の呂律と催馬楽の復興」

前島美保「江戸中期上方の大切所作事考 一詞章にみる江戸との関わり一」

彙報、活動記録1 プロジェクト研究・共同研究、活動記録2 特別研究員、活動記録3 専任教員大学院音楽研究科修士課程 日本音楽研究専攻

雅楽・舞楽および関連芸能のいまとむかし共同研究会（代表 田鋏智志）編『翻刻 雅楽小辞典 一南都楽家辻家旧蔵（国立歴史民俗博物館蔵）一』

日本伝統音楽研究センターでは、日本伝統音楽研究センター研究報告10「翻刻 雅楽小辞典 一南都楽家辻家旧蔵（国立歴史民俗博物館蔵）一」を出版いたしました。

〔内容〕

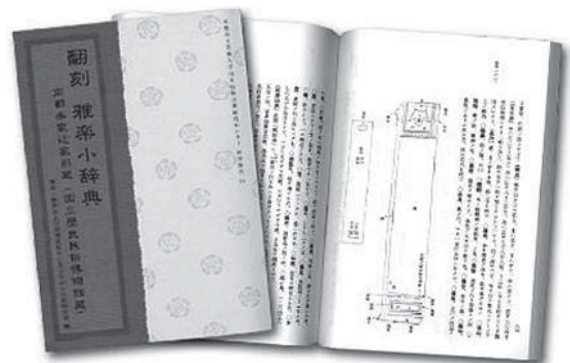
『雅楽小辞典』の概要 遠藤 徹

凡例、本辞典の使い方、翻刻 雅楽小辞典

（巻末楽器図）、小項目・歴史的かな遣い・別名・対照一覧

刊行日：平成28年3月31日

編集・発行所：京都市立芸術大学 日本伝統音楽研究センター



藤田隆則・高橋葉子・丹羽幸江編 『謡を楽しむ文化 一京都の謡の風景一』

日本伝統音楽研究センターでは、日本伝統音楽研究センター研究報告 11 「謡を楽しむ文化 一京都の謡の風景一」を出版いたしました。

〔内容〕

序 藤田隆則

第一部 岩井家旧蔵資料

岩井家旧蔵資料目録 恵阪 悟 編

展観「京観世岩井家の歴史」 田草川 みずき 編

『元禄年間能組控』 解題と翻刻 恵阪 悟

『能難子心得』 解題と翻刻 高橋 葉子

第二部 岩井家と謡の文化

岩井直恒音曲伝書『あやはとり』 解題と謙刻 大谷節子・高橋葉子

『そなへはた』を現代語訳する試み 一序文、凡例、音の部、吟の部 1— 藤田 隆則・丹羽 幸江・高橋 葉子
『岩井家所蔵目録』をめぐる文化的状況 一所載宴曲
関連書目の再検討 1— 岡田 三津子

能《逆矛》考一構造・作者・藝態の変遷— 味方 健

第三部 近代の謡の文化

『京都日出新聞』から辿る明治 41 年 (1908) の京都の謡曲界 上野 正章

福王流平岡家一門の素謡番組 一近代における京都素謡会の片鱗— 中尾 薫

オリエントの謡曲 SP レコード 大西 秀紀

プロジェクト研究「京観世の記録化」の開催記録 上野正章 編

あとがき 丹羽 幸江 / 高橋 葉子

刊行日：平成 28 年 10 月 31 日

編集・発行所：京都市立芸術大学 日本伝統音楽研究センター



山田智恵子『義太夫節の語りにおける規範と変形—地合の音楽学的研究—』

日本伝統音楽研究センターでは、日本伝統音楽研究センター研究叢書 2 として『義太夫節の語りにおける規範と変形—地合の音楽学的研究—』を出版いたしました。

〔内容〕

所長挨拶、まえがき、目次、凡例、序章、

前編 義太夫節の音楽構造と音楽の視覚化

第 1 章 義太夫節の音楽構造—地合とは何か

第 1 節 義太夫節の劇構成と音楽構成

第 2 節 義太夫節における旋律様式の問題

第 2 章 義太夫節研究における音楽の視覚化

第 1 節 伝統的楽譜

第 2 節 教本

第 3 節 音楽学的な視覚化の方法

後編 演奏の実際—その変形と規範

第 3 章 同一曲における演奏者による変形

第 1 節 比較の方法

第 2 節 変形の在処

第 3 章 付録〈御殿の段〉楽句の詞章と節章

第 4 章 地合における規範

第 1 節 規範の枠組み

第 2 節 常の地における規範

結章 語義が規定するもの

謝辞、引用文献、譜例音源一覧、論文内容の梗概、Dissertation Abstract、付録楽譜〈伽羅先代萩・御殿の段〉(豊竹山城少掾・四世鶴沢清六)、あとがき、「三絃十二調子之事」(岡田 1902『義太夫三味線両秘伝』より)

刊行日：平成 29 年 3 月 31 日

編集・発行所：京都市立芸術大学 日本伝統音楽研究センター



—DVD—

義太夫節の精華 竹本駒之助九段目を語る (DVD)

日本伝統音楽研究センターでは平成27年11月に開催された第43回公開講座『義太夫節の精華 竹本駒之助九段目を語る』における演奏、および講演を収録した映像ソフト (DVD) を発行いたしました。

〔収録内容〕

本DVDは日本伝統音楽研究センター公開講座の様子の録画を収録。また、公開講座で配布された解説冊子も付属しています。

講演：京都と「人形浄瑠璃」「義太夫節」神津 武男

《九段目切》の音楽構成 山田 智恵子

演奏：素浄瑠璃『仮名手本忠臣蔵』

《九段目切 山科隠家の段》

浄瑠璃 竹本 駒之助 三味線 鶴澤 津賀寿

アフタートーク

竹本駒之助 鶴澤津賀寿 (聞き手：神津 武男、山田 智恵子)

講演日時：2015年11月28日 13時30分～
16時30分

会場：ウィングス京都イベントホール

刊行日：平成28年6月30日

編集・発行所：京都市立芸術大学 日本伝統音楽研究センター



義太夫節 通し狂言の復曲 (DVD) (非売品)

日本伝統音楽研究センターでは平成28年3月に開催された第44回公開講座『義太夫節 通し狂言の復曲』における演奏、および講演を収録した映像ソフト (DVD) を発行いたしました。

〔収録内容〕

本DVDは日本伝統音楽研究センター公開講座の様子の録画を収録しました。

座談会 義太夫節および邦楽の復曲について

出演：後藤静夫、竹内有一、神津武男

司会：山田智恵子

作品解説：『ひらかな盛衰記』神津武男

試演会 『ひらかな盛衰記』序切「栗津合戦」復曲初

演 浄瑠璃：豊竹呂勢太夫、三味線：鶴澤藤蔵

アフタートーク

出演：豊竹呂勢太夫、鶴澤藤蔵、聞き手：山田智恵子、神津武男

刊行日：平成28年11月17日

編集・発行所：京都市立芸術大学 日本伝統音楽研究センター

閲覧方法：現在は当センター閲覧室でのみご視聴いただけます。今後、各地の図書館・研究機関にて閲覧いただけるよう準備中です。



第45回公開講座

「雅楽の形と道—唐代雅楽の伝搬と平安期の『雅楽』—」

日時：平成28年10月30日 (日) 14:00～
16:30

会場：京都テルサ 大会議室 (京都市南区東九条下殿
田町70番地 京都府民総合交流プラザ内)

内容：中国唐代の雅楽とはどのようなものだったのか、それが周辺諸国にどのような形で伝搬したのかを、上海音楽学院の超維平教授に、また日本では、唐のどのような音楽を輸入し、日本風

に変化させていったのかを、法政大学のスティーヴン・ネルソン教授を招き、講演していただきます。アジア規模でみた雅楽のお話です。

講演：趙 維平（上海音楽学院教授）、Steven G. NELSON（スティーヴン・G・ネルソン、法政大学文学部日本文学科教授・法政大学国際日本学インスティテュート専任教員）

構成・司会：武内恵美子（日本伝統音楽研究センター准教授）



第46回公開講座

「長唄の形と道一立誠校で今藤政太郎客員教授にきくー」

日時：平成29年2月12日（日）13:00-15:00

会場：元 立誠小学校 3階自彊室（京都市中京区蛸薬師通河原町東入備前島町310-2）

内容：舞伎とともに発達した三味線音楽「長唄」。その歴史と価値を振り返り、京都・日本の音楽文化を展望します。

今藤師は、長唄三味線の演奏と作曲の第一人者として、歌舞伎俳優、和・洋の舞踊家、演出家、映画監督等の厚い信頼を受け、多分野で繊細な感性を発揮されてきました。立誠校・銅駝校などで過ごした戦争前後の思い出、亡父で囃子方家元の四世藤舎呂船との先斗町での指導、古典の様式論、復曲への取り組みなど、貴重な芸談の数々に御期待ください。

講師・お話：今藤 政太郎 < 邦楽家（長唄三味線方・作曲家）、重要無形文化財保持者（人間国宝）、京都市立芸術大学客員教授 >

コメンテーター：時田 アリソン（日本伝統音楽研究センター所長）

構成・司会：竹内 有一（日本伝統音楽研究センター准教授）



第47回公開講座

「『浦上玉堂と催馬楽～江戸時代の催馬楽と『玉堂琴譜』の催馬楽・復元演奏比較～』

日時：平成29年3月5日（日）14:00-16:40

会場：京都市男女共同参画センター ウィングス京都市イベントホール（京都市中京区東洞院通六角下御射山町262番地）

内容：江戸時代の文人で、画家として著名な浦上玉堂は、自ら玉堂琴士と名乗り、画家よりむしろ琴（七弦琴/古琴）の演奏家であると自任していました。そして催馬楽を琴の伴奏で復元し、『玉堂琴譜』を出版しました。

催馬楽は、平安時代に貴族社会で演奏されていた雅楽の一種、歌謡です。その後伝承が途絶えていましたが、江戸時代に復元が試みられました。現在演奏されている催馬楽はそれが元になっているのですが、江戸時代の催馬楽は一朝一夕に完成したものではありませんでした。復元に際してどのような困難があり、それをどのように解決していったのでしょうか。

一方、ほぼ同時代の玉堂は催馬楽をどのように解釈したのでしょうか。玉堂は武士の身分を捨て各地を転々とした後、文人として後半生を京都で過ごしました。玉堂の京都での生活や交流について紹介しつつ、江戸時代に復元された催馬楽と玉堂が復元した催馬楽を、最新の研究によって復元した演奏で比

較します。

講演：高橋 博巳（金城学院大学名誉教授）

遠藤 徹（東京学芸大学教授）

武内 恵美子（日本伝統音楽研究センター准教授）

構成・司会：武内 恵美子（日本伝統音楽研究センター准教授）



6月 1日 「山の段」の音読と音楽 その1

8日 「山の段」の音読と音楽 その2

15日 「山の段」の音読と音楽 その3

22日 「山の段」の音読と音楽 その4

29日 「山の段」の音読と音楽 その5

7月 6日 文楽「山の段」(映像) その1

13日 文楽「山の段」(映像) その2

受講料：5,000円、定員：30名



でんおん連続講座

連続講座 A 「音楽としての義太夫節」

講師：山田智恵子（日本伝統音楽研究センター教授）

開講日・時間 平成28年5/11（水）～7/13（水）・13:00～14:30（3限）

会場：京都市立芸術大学 新研究棟7階 合同研究室1（京都市西京区大枝沓掛町13-6）

内容：人形浄瑠璃文楽の音楽である義太夫節の、ことば(詞章)と旋律の関係にスポットを当てます。七五調のことばのリズムや掛詞、発音などに留意して、義太夫節の音楽表現の豊かさを理解することを目指します。

今回は日本版ロミオとジュリエット、『妹背山婦女庭訓』三段目切「山の段」を取り上げる予定です。第1回ゲスト 神津 武男（日本伝統音楽研究センター客員研究員・早稲田大学演劇博物館招聘研究員）

開講日程：

5月11日 『妹背山婦女庭訓』の成立・上演史（ゲスト講師：神津 武男）

18日 義太夫節の音楽構造と三味線の実際

25日 三段目のあらすじ及び風（音楽様式）の口伝

連続講座 B 「能の囃子・音曲の骨組みを理解する」

講師：藤田 隆則（日本伝統音楽研究センター教授）

開講日・時間：平成28年5/11（水）～7/13（水）・10:40～12:10（2限）

会場：京都市立芸術大学 新研究棟7階 合同研究室1（京都市西京区大枝沓掛町13-6）

内容：室町時代に成立した能。数時間にもおよび力のこもる演技をしっかりと受けとめるためには、謡の内容理解に加え、囃子や音曲の理解も必要です。

今回は能一番の小段の流れに焦点をあてて、音曲面の組立ての理解を試みます。能の鑑賞歴・稽古歴は長くても「わかった」という実感が得られないと感じられる方、音楽面への関心がある方、ぜひ受講してください。

開講日程：

5月11日 役者の登場

18日 序：人物の登場（その1）

25日 序：人物の登場（その2）

6月 1日 破：人物による物語の展開（その1）

8日 破：人物による物語の展開（その2）

15日 破：人物による物語の展開（その3）

22日 破：人物による物語の展開（その4）

29日 破：人物による物語の展開（その5）

7月 6日 急：物語のはてに働く、舞う

13日 急：物語の結末と祝言

受講料：5,000円、定員：30名



連続講座 C 「常磐津節実践入門 その3」

講師 常磐津 若音太夫（竹内 有一） 日本伝統音楽研究センター准教授、常磐津 音花〈三味線指導補助〉

開講日・時間：平成28年5/17（火）～9/20（火）・10：40～12：10

会場：京都市立芸術大学 新研究棟7階 合同研究室1（京都市西京区大枝沓掛町13-6）

内容：京都生まれの初世常磐津文字太夫が創始し、江戸歌舞伎で大成させた常磐津節。古典曲「将門」を題材に、作品の構成や特徴、表現技法を考察しながら、浄瑠璃（語り）と三味線、それぞれの演奏体験を深めます。

開講日程：

5月17日 課題設定とビデオ視聴

31日 課題研究（演奏実践）

6月14日 課題研究（演奏実践）

28日 課題研究（演奏実践）

7月12日 課題研究（演奏実践）

26日 課題研究（演奏実践）

8月9日 課題研究（演奏実践）

23日 課題研究（演奏実践）

9月6日 試演会

20日 まとめと評価

受講料：5,000円、定員：10名



連続講座 D 「日本の作曲家を聴く～今年アニバーサリーを迎える作曲家を中心に～」

講師 竹内 直 日本伝統音楽研究センター非常勤講師

ゲスト：大嶋 義実 京都市立芸術大学音楽学部教授

開講日時間：平成28年8/9（火）・8/10（水）

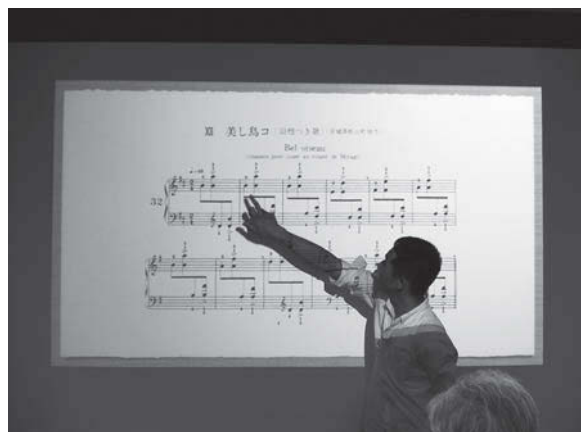
13：00～16：30

会場：京都市立芸術大学 新研究棟7階 合同研究室1、および大学会館ホール（京都市西京区大枝沓掛町13-6）

内容：2016年は柴田南雄（1916～1996）、武満徹（1930～1996）の没後20年、松平頼則（1907～2001）の没後15年に当たります。

本講座では、とくに松平頼則に焦点を当講義と実演を通して、その音楽と日本の伝統音楽との関わりを考察します。

受講料：2,000円、定員：30名



連続講座 E 「PENDULUM II 英語による日本音楽概論」

講師：時田アリソン(日本伝統音楽研究センター所長)

開講日・時間：平成 28 年 8/16 (火) ～ 8/18 (木)

10:00～17:00

会場：京都市立芸術大学 新研究棟 7 階 合同研究室 1
(京都市西京区大枝沓掛町 13-6)

内容：古くから現在まで伝承されている日本の音楽とその近代的発展を、英語による講義で紹介いたします。英語で日本音楽をどう説明すればよいか、日本人と留学生と一緒に考えながら、手軽に日本の音楽文化について大まかな理解を得ることを目指します。

雅楽・声明・そして語りの音楽(平家・浄瑠璃)と演劇(能・文楽・歌舞伎)との関係や、器楽(三味線・箏・尺八)について講義に加え、体験的なワークショップを行います。*この講座は英語で行います。



連続講座 F 「常磐津節実践入門(その4)」

講師：常磐津若音太夫(竹内有一、日本伝統音楽研究センター准教授)

開講日・時間：平成 28 年 11/8 (火) ～平成 29 年 3/7 (火) 【全 8 回】 火曜日・10:40～12:10

会場：京都市立芸術大学 新研究棟 7 階 合同研究室 1
(京都市西京区大枝沓掛町 13-6)

内容：京都生まれの初世常磐津文字太夫が創出し江戸歌舞伎で大成させた常磐津節。古典曲を題材に、作品の構成や特徴、表現技法を考察しながら、浄瑠璃(語り)と三味線、それぞれの演奏体験を深めます。

開講日程

11 月 8 日 課題設定とビデオ視聴

22 日 課題研究(演奏実践)

12 月 6 日 課題研究(演奏実践)

1 月 10 日 課題研究(演奏実践)

24 日 課題研究(演奏実践)

2 月 7 日 課題研究(演奏実践)

21 日 試演会

3 月 7 日 まとめと評価

受講料：5,000 円、定員：10 名



連続講座 G 「京都の琴(その2)」

講師：武内 恵美子(日本伝統音楽研究センター准教授)

開講日・時間：2017 年 1 月 28 日(土)・2 月 4 日(土)・2 月 11 日(土・祝)

【全 3 回】 各 13:00～16:10

会場：京都市立芸術大学 新研究棟 7 階 合同研究室 1
(京都市西京区大枝沓掛町 13-6)

内容：昨年度に引き続き、江戸時代の京都で琴を演奏した人物を取り上げ、京都における琴の世界のあり方やどのような関係性が保たれていたのかを紹介いたします。毎回琴の演奏体験講座も行う予定です。

受講料：3,000 円、定員：30 名



連続講座 H「音楽実践をもって徳を積む～平安後期・鎌倉期の管絃講（往生講式）、そのころ～」

講師：田鍬 智志（日本伝統音楽研究センター准教授）

1. 2017年3月10日（金）13:00～16:10
2. 2017年3月11日（土）14:30～16:30

会場：1. 京都市立芸術大学 新研究棟 7階 合同研究室 1

2. 真宗高田派本山 専修寺京都別院

内容：平安後期には、法華経などが説く音楽供養による功德をもって往生／成仏をめざす「管絃往生」思想が僧や公家に広まります。それを実践する講会が管絃講（往生講式）です。阿弥陀浄土を讃嘆する式文と、唄をつけた雅楽曲とが交互に配されます。

2日目には、楽譜史料から推定される当時の雅楽の音楽様式により管絃講を行います。

受講料：1. 1,000円、2. 志納（＊2）

＊2日目にご来場の皆さまからお預かりした浄財は、東日本大震災・熊本地震など災害復興義援金として全額寄付いたします。

定員：30名



伝音セミナー

◇第1回 5月12日 子どものためのレコード

日本の子どものために作られたレコードの歴史は古く、明治の出張録音期からすでに唱歌が三味線音楽や謡曲とカタログ上で肩を並べていました。大正に入るとお伽劇、お伽歌劇といった新しいジャンルが生まれ、大人達は子どものために手の込んだレコード作りに心血を注ぎます。今回は北村季晴作「ドンブラコ」（大正2年発売、5枚10面）を中心に、巖谷小波・佐々紅華作「ウサウサ兎」、「ウトコ爺さん」、小波

自身の朗読による「正直正吉」などをお聴きいただきます。

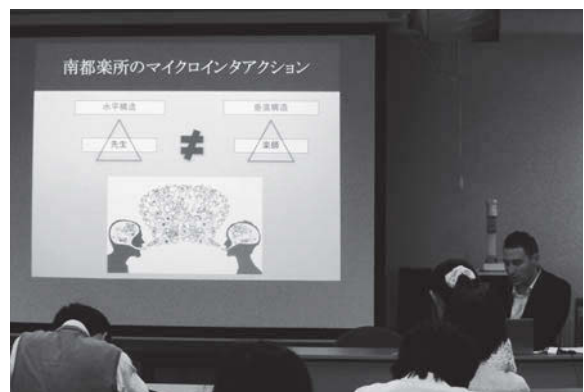
進行役：大西 秀紀（日本伝統音楽研究センター客員研究員）



◇第2回 6月2日 現代日本における雅楽の「面白さ」

「日本の雅楽をどう思いますか？」この問いに、日本の若者の多くは困惑するでしょう。彼らにとって雅楽はエキゾチックなのです。一方で私のような海外の若手研究者にとって、日雅楽が有する長い歴史やステータス体験・交流をふまえて、雅楽の音楽、またその伝承を支える人々の魅力について語ります。

進行役：アンドレア ジョライ（国際交流基金フェロー）



◇第3回 7月7日 「松坂」をたどる

「松坂」という名の付いた民謡や、これを起源とされる民謡は日本各地で広く歌われています。

今回は『日本民謡大観』などに収められた論考などを頼りに、「松坂」の聞き比べをすることで、民謡が伝承・伝播していくなかでどのように変化していくのか

を考えます。

進行役：梶丸 岳(日本伝統音楽研究センター非常勤講師)



◇第4回 8月4日 昭和の関西歌舞伎の音楽を聴く

昭和の関西歌舞伎を支えた杵屋富造(1902～1977)と杵屋胡金吾(1921～2009)。この二人に関する知られざる録音が、この度発見されました。その貴重な音源と関連資料をたよりに、かつての上方歌舞伎の黒御簾音楽に迫ります。

進行役：前島 美保(日本学術振興会特別研究員)、竹内 有一(日本伝統音楽研究センター准教授)



◇第5回 9月1日 『玉堂琴譜』の再現

琴(七絃琴/古琴)は「減字譜」という専用の楽譜を用います。この楽譜は他の楽譜と同様、記譜の限界と問題を抱えており、残念ながらリズムが記載されないため、伝承が途絶えてしまい、楽譜だけ残っている曲の再現には再現する人の解釈が入る余地があります。今回は江戸時代の日本人で琴を演奏した浦上玉堂の記した楽譜『玉堂琴譜』の再現例を聴き比べることで、打譜と呼ばれる琴曲の再現について考えます。

進行役：武内 恵美子(日本伝統音楽研究センター准教授)



◇第6回 11月10日 日本の作曲家を聴く(その2) ～能と日本の現代音楽～

能と日本の現代音楽、この二つの領域はどうやら相性が良いようで、多くの作曲家が能に取材した作品を書いています。今回は、同じ題材にもとづく作品を中心に音源を聴いてみたいと思います。

進行役：竹内直(日本伝統音楽研究センター非常勤講師)



◇第7回 12月1日 舞楽いろいろ(その2)～映像でめぐる地方の伝承～

舞楽には宮内庁式部職楽部など中央の伝承に対し、日本海沿岸や静岡・宮城など地方に舞楽の伝承があります。両者は曲名や装束に多少の共通点があるものの、音楽や舞には著しい相違があります。講師が長年撮りためた映像により、地方舞楽の世界をご紹介します。

進行役：田鍬智志(日本伝統音楽研究センター准教授)



◇第8回 2月2日 徳川夢声で聴く小説『宮本武蔵』

昭和10年から14年にかけて新聞に連載された吉川英治の小説『宮本武蔵』は国民的人気を博し、今に至るまで様々なメディアで表現され続けています。

今回は、大正から昭和にわたり多分野で活躍した徳川夢声の朗読による、昭和38年のレコード音源（音楽・効果音つき）をとりあげ、名場面を中心にお聴きいただけます。

進行役：中安真理（日本伝統音楽研究センター非常勤講師）



◇第9回 3月2日 下掛宝生流の謡を聞く

能のワキ方は、主役のシテの物語を引き出す大事な役割を果たします。近年京都でもお馴染みになった下掛宝生流は、明治の宝生新をはじめ数々の名人を輩出して近代の能を牽引してきました。また一方で、ワキ方は謡の専門家として謡文化の興隆を支えてきました。流儀の歴史や謡の特徴に触れながら、下掛宝生流の名演をお聴きいただけます。

進行役：高橋葉子（日本伝統音楽研究センター客員研究員）



所長サロン

http://w3.kcuu.ac.jp/jtm/events/directors_salon/index.html

「所長サロン」は、大学全体の方に声をかけて、ランチタイムに、お弁当を持ち込んで食べながらお話を聞いてもらう形式です。

2016年の所長サロンのテーマは「日本音楽の将来」に設定しました。それぞれのゲストに、ご自分の音楽歴について語っていただき、面白いエピソードをたくさん聞かせていただきました。目的は、日本の伝統音楽との関わり方を探ること、西洋音楽が主流になっている日本における伝統音楽の位置づけと問題点、音楽教育と伝統音楽の関係について一緒に考えることでした。

◇第1回 4月12日 ゲスト：鷺田清一氏

哲学者で、京都市立芸術大学学長の鷺田先生が、40歳代のときに初めてピアノを習った体験談は特に印象的でした。以下、伝音所員によるフェイスブックへの投稿を紹介します。

「お子さんと一緒にピアノ教室に通ったこともあるという鷺田先生。ツェルニーまで進んだけど、発表会でショパンのノクターンを弾け、といわれ、無理だとさってピアノやめてしまわれたそうです。「何事もムリとおもったらいさぎよくやめる」のがモットーだとおっしゃる鷺田先生。

40代まで日本音楽や芸能にはまったく興味なかったそうです。琉球大の集中講義の後のコンパで、学生たちが当たり前のように沖縄民謡歌う姿をみてハッとさせられたとおっしゃいます。一体の人形を扱うのに、3人の人形使いがいてセリフや心情は太夫という

別の人がこなす文楽の世界、一つの物事こなすのに
たくさんの人が分担して関わるのが日本文化の特徴
でそこが興味深いポイントだとおっしゃいます。」(田
鎌智志)



◇第2回 5月19日 ゲスト：大嶋義実氏

世界的に演奏活動されているフルート奏者で、本学音楽学部長の大嶋先生は、笛吹は瓶でも、丸いものを見れば吹きたくなるので、もちろん尺八を吹いてみたことがあるとのことでした。無理に音楽を押しつけないで、面白いと思う人たちがいれば良いということ、いい仕事に就職したい人はこの大学に来ないでほしいという見方でした。つまり、日本の音楽を押し付けしないで、「音楽の面白さ」に任せておいてもいいだろう、とのご意見でした。

「ベルリンの壁崩壊前の共産体制下のチェコ。プラハ放送交響楽団初来日の際の、日本での団員発掘オーディションにみごと合格され、フルート団員として活躍された大嶋教授が今回の所長サロンのゲスト。

景気など関係なくいつの世でも職にありつけない芸大音楽の卒業生たち。しかし、どんなに貧乏でも(フツの企業に就職するようなヤツラよりも)楽しそうに生きているぞ!(楽しく生きられる!)ということ、を、発信していきたい!就職したけりや芸大なんか来るな!と爆弾発言連発の大嶋学部長さんです。日本音楽にかんしてもズケズケいわれます(ww)。価値観は人それぞれで何が正しいわけでも間違いでもないですが、私(レポーターT)的には共感するところ大です。以下、ご発言のいくつか紹介します!」(田鎌智志)



◇第3回 6月9日 ゲスト：常磐津都毘藏氏

「都毘藏師は常磐津節を専門とする家系に生まれ、家の中で常磐津節が常に聞こえる環境で育ち、覚えるともなく身についたそうです。昔と今とでは教え方に变化があること、常磐津節では三味線がコンダクターのように語りや踊りの流れを導いていくこと、現在では語りと三味線方が分かれているが、本来は両方とも会得した方が良いこと、主催されている研究会では古曲の演奏にも力を入れていること、などなどを優しい語り口でお話いただきました。」(中安真理)



◇第4回 7月1日 ゲスト：金剛永謹氏

「能の舞台に立つ心構えや能楽師の養成、海外公演の様子や金剛流の普及活動などさまざまなことについて、穏やかな語り口でお話いただきました。最後に面(おもて)についての質問へのお答えのなかで、能面は無表情であるが、良い面が滲えているのは単なる無ではなくあらゆる表情を含みこんだ無である、という深いお話も。

現代日本における能のあり方から能の哲学まで、能が持つさまざまな「面」を伝えていただいたように思います。どうもありがとうございました。」(梶丸 岳)



◇第5回 7月28日 ゲスト：今藤政太郎氏

人間国宝、本センターの客員教授、長唄の囃子方の家に生まれ、長唄三味線方になり、三味線の演奏活動と映画音楽を含む作曲活動を展開、その両方で様々な受賞歴があります。多くの海外公演において立三味線を務めています。

「本日客員教授の今藤政太郎師を迎えて第5回所長サロンを実施いたしました。キーワードは形と心、伝承と伝統の相違、作曲とこしらえもの等々。「様式は普遍的なルールではなく、伝統には可塑性がある」「日本音楽の価値を知り、その問いかけに応える義務がある」など、非常に幅広く活動されてきた今藤政太郎師ならではの名言が数々飛び出しました。」(武内恵美子)



◇第6回 10月20日 ゲスト：三好荒山氏

都山流尺八奏者で、活動の中心は京都。

12歳のとき都山流・富井舜山に入門。39歳のときに尺八界最高の称号「竹琳軒」になられます。アメリカ、中国、モロッコ、中近東を訪問。さらに海外からの招聘で、ドイツ、フランス、スペイン、アメリカ、カナダ、オーストラリア等、数多くの公演を行っています。日本の伝統文化を継承するにとどまらず、クラ

シック音楽、ジャズ、ロックとのクロスオーバー等ジャンルを超えて、尺八の楽器としての可能性の追求に情熱を燃やしています。邦楽アンサンブル「みやこ風韻」の段長として活躍しています。

「京都＝邦楽のメッカとおもわれがちですが、荒山さんのような生粋の関西演奏家はすくなく、いても東京方面に流れていっちゃうか、東京（芸大卒）の人を呼んでくるか、東京におんぶにだっこ状態が現実です。京都では子どもの邦楽教育体制がほとんど成り立っていないことに、危機感を抱いていらっしやいます。古典の演奏のみならず新作曲の演奏に、たいへん精力的な荒山さん。武満徹ノベンステップスの尺八・琵琶ソロのような図形的楽譜は、一般には、難解で演奏家泣かせと思われがちですが、荒山さんにしてみれば、(五線譜よりも)とっつきやすいそうです。そんな話にある作曲専攻の院生さんは、熱心に聞き入っていました。」(田鍬智志)



◇第7回 10月27日 ゲスト：趙 維平氏

趙先生は上海音楽学院教授、音楽学部長です。大阪大学で日本と中国の雅楽についての研究、中国の伝統音楽教育は音楽院で大切にされています。

日本音楽史を研究対象とし、日中、東アジア圏での比較もされており、その研究業績は中国語、日本語、英語で数多く出版され、国際的に高く評価されています。今回、日本伝統音楽研究センターの招聘にて来日。趙氏の研究テーマである日本の雅楽と中国の雅楽・東アジアとの比較について意見交換及び講演を行い、日本伝統音楽の研究発展に寄与するとともに今後の両国の研究、そして伝統音楽教育の方向性や協力体制等を検討しました。

「第7回所長サロンは上海音楽学院の趙維平先生をお

迎えして実施しました。中国の音楽教育の状況、日本音楽を研究することについて等、様々なことをお伺いいたしました。」(武内恵美子)



◇第8回 11月24日 ゲスト：大谷祥子氏：

「今回のゲストは、大谷祥子さん。生田流の箏・三絃の演奏家として活躍しておられます。家元と門弟は本来どういう関係であるべきか、流派・門閥とはどうあるべきか。また、現代曲ならではの特色と価値をどう捉えて演奏家として対峙していくのか、などなど、箏曲界の現状とご自身の豊かな経験を踏まえた具体例を交えながら、日本音楽のより良い将来に向けたメッセージをおうかがいしました。フロアには、教職員や学生のほか、国内外の演奏家もお見えになって日本音楽の未来について歓談。国際的なサロンになりました。」(竹内有一)



図書館

利用案内

(1) 収蔵資料と目録

- ・研究者、学生、市民に向けて、日本伝統音楽とその関連領域の書籍・視聴覚資料や情報を提供しています。折にふれ、資料の展覧などもおこなっています。(資料の種別：図書、展覧会図録、楽譜、逐次刊行

物、視聴覚資料、その他日本伝統音楽に関する写本等)

- ・収蔵資料目録は、web サイトにおいてデータベース形式で公開しています。

(2) 図書室および収蔵資料を利用できる方

- ・本学の教職員(非常勤を含む)／学生
- ・調査研究のために利用を必要とされる方

(3) 開室日時と休室日

- ・開室日時 毎週水・木・金曜日 10時～17時
- ・休室日 月・火・土・日曜日、
「国民の祝日に関する法律」で定める休日、入学試験期間中・年末年始・棚卸及び保守点検等の業務上の必要期間

※その他、必要に応じて、休室することがあります。

最新情報は web サイトでご確認ください。

(4) 利用できるサービス

○閲覧

- ・資料は閲覧室でのみご利用いただけます。書庫内資料をご利用になる場合は受付カウンターにお申し込みください。
- ・本学の教職員・学生以外への資料の貸出は行っていません。
- ・複写サービスは行っていません。

○視聴

- ・当室所蔵のCD・DVD・ビデオテープなどを視聴することができます。

○レファレンスサービス

- ・毎週水・木・金曜日 10時～17時

○その他

- ・本学教職員(非常勤講師を含む)及び本学学生のみ室外貸出を行っています。詳しくは web サイトをご覧ください。

(5) 資料のデジタル化と web 公開

- ・一部の音源資料・貴重資料・研究成果等は、web サイトにおいて、デジタル化したものを公開しています。

図書室での企画

- ・閲覧室では図書室スタッフによる当センター所蔵資料のおすすめ本を紹介しています。

今年度は日本音楽一般、雅楽、能・狂言・義太夫節・文楽などの本や CD・DVD を紹介しました。

来訪者

- * 2016.05.18 アンゴラ・ルアンダ市、カポソカ音楽学院の学生オーケストラ、院長の Pedro Fançony 氏、アンゴラ大使館領事、Helder J. Teixeira Congo 氏
- * 2016.05.30 Margaret Kartomi モナシユ大学音楽学部教授
- * 2016.07.14 Francis Biggi ジュネーブ高等音楽院教授
- * 2016.07.22 文化市民局の北村局長・吉岡課長・原係長
- * 2016.09.02 朴 実氏、京都市立芸術大学音楽学部同窓会「真声会」専務理事
- * 2016.09.13 Denis Gainty 氏、ペンシルベニア大学、日本ブルーグラス研究家
- * 2016.10.06 廣瀬周平氏、山上友佳子先生
- * 2016.10.28 広島加計学園・英数学館中・高等学校・中学生と Jane Humphrey 先生
- * 2016.12.06 文化市民局 文化芸術都市推進室 文化芸術企画課 計画推進担当課長 吉岡久美子と、京都文化交流コンベンションビューローの職員
- * 2016.12.08 Elizabeth Nunley and David Blair 俄 (NIWAKA) Discover Kyoto 編集部、ライター・ナンリー・エリザベス氏
- * 2017.02.02 オタゴ大学教授・Henry Johnson
- * 2017.02.07 Kiku Day 氏、尺八奏者、デンマーク

特別講演

- * 2016.06.30. Stéphane Orlando, Arts Conservatory of Mons, Belgium, Film music accompaniment strategies in Silent Movies since 1895.
- * 2016.07.04 Professor Francis Biggi Professor and Head, Département de Musique Ancienne, Haute École de Musique de Genève, The sound of silence: Reconstructing lost voices. The Italian tradition of singers of tales from the Renaissance to modern times.

短期滞在者

- * 2016.06.28 ~ 07.21 Stéphane Orlando, Arts Conservatory of Mons, Belgium
- * 2016.10.26 ~ 11.03 上海音楽学院・趙維平教授
- * 2015.10.01 ~ 2016.09.30 ライデン大学博士課程在学学生、国際交流基金フェロー Andrea Giolai

歴史的音源からみる三味線音楽の音楽的研究—町田佳聲とその周辺

研究代表者：山田智恵子

プロジェクト研究（継続）

共同研究員：大久保真利子（福岡国際大学非常勤講師）、小塩さとみ（宮城教育大学教授）、大西秀紀（京都市立芸術大学客員研究員）、蒲生郷昭（東京文化財研究所名誉研究員）、久保田敏子（京都市立芸術大学名誉教授）、薦田治子（武蔵野音楽大学教授）、田中悠美子（義太夫三味線演奏家、研究者）、寺田真由美（相模女子大学非常勤講師）、時田アリソン（日本伝統音楽研究センター所長）、野川美穂子（東京藝術大学非常勤講師）、配川美加（放送大学非常勤講師）、廣井榮子（大阪教育大学非常勤講師）、吉野雪子（国立音楽大学非常勤講師）

開催趣旨：

町田佳聲は、五線譜による楽譜集『三味線声曲における旋律型の研究』以後、やり残した仕事のいくつかをLPレコードアルバムの形で発表している。それは現存三味線音楽に見られる、先行芸能・流行歌・古浄瑠璃などの引用の考証と、上方と江戸の音楽様式の違いの把握などであり、その考察の材料となる音源を多数残した。それらのレコードアルバムは、町田の三味線音楽研究人脈によってなされたもので、現在我々が演奏家の協力のもと同じことをしようとしても、かなり困難な状況にある。従って、その歴史的音源の内容を検討しつつ、三味線音楽における通ジャンルの旋律型を音から辿ることを試みる。各種の三味線音楽研究者との共同研究が必要であり、主に前年度からのメンバーの継続が中心となる。また、成果発表については、歴史的音源を使用して、市民講座のかたちで、一般に公開する予定である。

2016年度

第1回研究会 2016年5月29日（日）12時～17時30分

場所：合同研究室 1、(2) (3) は一般にも公開。

- (1) 今年度の研究打ち合わせ
- (2) 豊竹嶋太夫師に聞く「義太夫節における地合と詞」
聞き手 山田智恵子 神津武男（伝音センター客員研究員）
- (3) 嶋太夫師を囲んでの座談会

ゲストスピーカー：豊竹嶋太夫師（文楽、人間国宝）、神津武男氏（伝音センター客員研究員）



第2回研究会 2016年11月19日(土) 12時～17時30分、合同研究室2

- (1) 岡本文弥著『新内曲符考』について ----- 林一行(京都市立芸術大学大学院音楽研究科日本伝統音楽研究専攻学生)
- (2) 「大薩摩四十八手」について ----- 蒲生郷昭
- (3) 次年度の成果発表計画

第3回研究会 2017年2月5日(日) 12時～17時30分、合同研究室2

- (1) 国際文化振興会制作のSPレコード集『日本音楽集』について(その2) ---- 大久保真利子
- (2) 話題提供「〈〇〇小唄〉を整理する」----- 寺田真由美

第4回研究会 2017年3月10日(金) 12時～18時、合同研究室2

- (1) 私が接した町田先生 ----- 蒲生郷昭
- (2) 長唄の旋律型を考える—獅子物の「クルイ(五段)」の比較 ---- 小塩さとみ
- (3) 成果報告について

第5回研究会 2017年3月11日(土) 10時半～17時、合同研究室2

- (1) 町田の「木やり歌」研究を考える ----- 山田智恵子
- (2) 京都のレコード会社 東洋蓄音機・オリエントレコードについて ---- 大西秀紀
- (3) 次年度成果発表の日程と内容について

音曲面を中心とする能の演出の進化・多様化

研究代表者：藤田隆則

プロジェクト研究(継続)

共同研究員：安納真理子(東京工大)、上野正章、大谷節子(成城大)、大山範子、柴田真希、高橋葉子(本学客員研究員)、田草川みずき、田中敏文、玉村恭(上越教育大)、中尾薫(大阪大)、長田あかね、中嶋謙昌(灘高)、丹羽幸江(本学客員研究員)、Pellecchia Diego、森田都紀(京都造形芸大)、横山太郎(跡見学園女子大)

開催趣旨：

能の多くの登場人物は囃子にのって登場する。そして、すべての登場人物は台詞の一部を必ず歌う。能は音曲の要素なしにはなりたないものである。室町期以来の伝承の過程で、能の音曲は、娯楽と社交の、儀礼遂行の、修道の、手段となってきており、それにともない能の音曲は、構成やテクスチャーにおいて、独自の発展をとげ、日本の伝統芸能の中でもユニークな存在となっている。だが、ユニークさだけをうたっているわけにはいかない。時代の流れの中で、音曲は様々な影響を被り、変化を受けてきた事実があり、現代も新陳代謝を続けている。本研究会は、能の演出の進化・多様化を、音曲面を中心に見渡すことをめざす。

2016年度の研究会

時間：13時30分—17時

場所：日本伝統音楽研究センター合同研究室(新研究棟7階)

- 5月7日(土) 新作能「パゴダ」をいっしょに歌って、演出の問題を考えてみる—その1(安納)
- 6月4日(土) 新作能「パゴダ」をいっしょに歌って、演出の問題を考えてみる—その2(安納)
- 7月2日(土) 参加者各人による、現在のプロジェクトあるいはこれからのプロジェクトについての報告(全員)
- 8月6日(土) 『謡を楽しむ文化—京都の謡の風景』(近刊)序文の検討(藤田)、復曲における旋律と拍子の選択肢(丹羽)
- 9月3日(土) 田安宗武による「砕動」の舞譜について(中尾)
- 10月1日(土) D.クランドルさんの英語能〈ジェーン物狂〉の音楽面・演劇面について(安納)、明和改正謡本の節付「ウ」—江戸中期能楽観世流の中音旋律(高橋)
- 後期は、藤田のサバティカル休暇のため、休会。

■ 雅楽および関連芸能の歴史的音楽動作様式をさぐる —多様な解釈の可能性—

研究代表者：田鍬智志

共同研究(2016年度開始)

共同研究員：ネルソン スティーブン G. (NELSON, Steven G. 法政大学文学部教授)、今 由佳里(鹿児島大学教育学部准教授)、中尾 薫(大阪大学大学院文学研究科准教授)、平野 みゆき(金蘭千里高等学校中学校社会科教諭)、上野 正章(大阪大学招聘研究員)、増田 真結(京都市立芸術大学音楽学部講師)、ジョライ アンドレア (GIOLAI, Andrea 交際交流基金フェロー・ベネツィア大学博士課程)、

雅楽において楽譜・舞譜は、古今それぞれの時代に撰述がなされ、少なからず伝存している。これまで多くの研究者によって、雅楽古譜の解読がなされ、そして音源化されてきた。再現・演奏され録音された音楽は、あたかも真実であるかのような印象があるが、しかし、備忘的・簡易的記譜法で記されているそれら楽譜史料は、解釈如何によって、そこから様々な音楽・舞踊が立ち現れうるものである。当研究会では、メンバー夫々が対象とする音楽・芸能に対し(唯一の解釈に収斂させてしまうのではなく)さまざまなアプローチにより、さまざまな解釈を提示しあって、さまざまな再現・復興の可能性を追求していく。

■全体会：8月19日(金) 於伝音センター・9月18日(火) 於宇治市民会館・宇治市源氏物語ミュージアム
各研究員の研究計画発表・実演つき講座等の実施について策定した。9月18日午後は、源氏物語ミュージアム企画展「源氏物語の音楽」(田鍬活動報告参照)見学。

■往生講式(管絃講) 厳修にむけた史料検討・五線訳譜作業・練習のための部会：11月27日(日)・12月25日(日)・1月22日(日)・2月13・14日(月火)・2月28日(火)・3月9・10日(木金)以上於伝音センター・3月11日(土) 於専修寺京都別院

連続講座H「音楽実践をもって徳を積む—平安末期・鎌倉期の管絃講(往生講式)、そのころ—」の一環として、平安末期～南北朝期の古楽譜・式次第・式文旋律作法書の解読・解釈にもとづく順次往生講式(管絃講)を講座2日目(3月11日)に修した。訳譜作業・演奏には、研究会員および演奏家・学生等に協力を仰いだ。配役・役割は以下のとおり(以下、所属は2017年3月現在)。

鷹阪 龍哉(導師, 式役, 伽陀/龍源寺住職)・中川 佳代子(箏, 歌詠/箏曲演奏家)・上野 正章(笏拍子, 磬, 歌詠)

／式文校正)・グルピンスカヤ, ナタリヤ (歌詠／国際日本文化研究センター客員研究員)・今 由佳里 (歌詠／式文校正)・中尾 薫 (歌詠／式文校正)・田鍬 智志 (琵琶, 歌詠, 訳譜, 編集, コーディネート)・管 亭安 (琵琶, 訳譜／大学院音楽研究科研究留学生)・吉岡 倫裕 (龍笛／明壽院住職・大学院音楽研究科修士日本音楽研究専攻)・陳宗彤 (笙／大学院音楽研究科研究留学生)・伊藤 慶佑 (箏, 訳譜／音楽学部作曲専攻)・安田 信源 (法話／安立寺住職)・東 正子 (撮影／伝音センター非常勤講師)・ネルソン, スティーブン G. (訳譜, コーディネート)・平野みゆき (訳譜) ほか。

「豊後系浄瑠璃の史料と伝承—常磐津節を中心に—」

研究代表者：竹内有一

共同研究 (2016 年度開始)

共同研究員：大西秀紀 (京都市立芸術大学客員研究員)、小西志保 (竹内研究室研究嘱託員、邦楽演奏家)、常岡亮 (常磐津協会理事、邦楽演奏家)、配川美加 (東京芸術大学非常勤講師)、前島美保 (日本学術振興会特別研究員、京都市立芸術大学客員研究員)

豊後系浄瑠璃諸派のうち、流祖宮古路豊後掾の直系で現存最古とされる常磐津節を中心に、総合的な調査研究を進める。28 年度は、ゲストスピーカーを交えた分科会を中心に開催し、以下の課題を適宜分担して研究する。(1) 新出常磐津正本の書誌的調査・翻刻・歴史的考察、(2) 他流との掛合ものの実践的研究、(3) 稀曲・復曲に関わる予備的研究、(4) レコード音源の調査と考証。

成果の公開については、28 年秋に、課題 (2) のプレゼンテーションとして、外部団体との共催により公開研究会を開催予定。その他の課題については、29 年度以降に順次、公開方法を検討する。

第 1 回 2016 年 5 月 28 日 (土) 13 時～17 時

史料調査とミーティング (浄瑠璃本閲覧の方法論)、場所：国立国会図書館

第 2 回 2016 年 5 月 29 日 (日) 11 時～19 時

常磐津節の伝承実態調査 (常磐津協会主催演奏会)、場所：国立劇場

第 3 回 2016 年 6 月 20 日 (月) 18 時～20 時

ミーティング (研究の目的と方法)、場所：グランビア京都ラウンジ

第 4 回 2016 年 6 月 21 日 (火) 15 時～18 時

常磐津家元所蔵正本の書誌調査と修復準備 1、場所：日本伝統音楽センター 601 研究室・805 研究室
(以下の場所は、特記なき場合、前に同じ)

第 5 回 2016 年 7 月 21 日 (木) 13 時～18 時

常磐津家元所蔵正本の書誌調査と修復準備 2

第 6 回 2016 年 7 月 22 日 (金) 10 時～15 時

常磐津家元所蔵正本の書誌調査と修復準備 3

第 7 回 2016 年 8 月 4 日 (木) 13 時～19 時

常磐津家元所蔵正本の書誌調査と修復準備 4

第 8 回 2016 年 8 月 5 日 (金) 10 時～14 時

常磐津家元所蔵正本の書誌調査と修復準備 5

- 第9回 2016年8月8日(月) 14時～18時
ミーティング(伝音セミナー「昭和の関西歌舞伎の音楽を聴く」を振り返って意見交換)
- 第10回 2016年8月9日(火) 13時～17時
常磐津家元所蔵正本の書誌調査と修復作業1
- 第11回 2016年9月12日(月) 14時～19時
常磐津家元所蔵正本の書誌調査と修復作業2
- 第12回 2016年9月13日(火) 10時～16時
常磐津家元所蔵正本の書誌調査と修復作業3
- 第13回 2016年9月22日(木) 14時～19時
常磐津家元所蔵正本の書誌調査と修復準備6
- 第14回 2016年9月23日(金) 10時～16時
常磐津家元所蔵正本の書誌調査と修復準備7
- 第15回 2016年10月3日(月) 14時～18時
常磐津と長唄の掛合上演に関する実践的研究(長唄喜楽会と合同)、場所:京都芸術センター大広間、ゲストスピーカー:今藤政之祐(長唄演奏家)
- 第16回 2016年10月24日(月) 14時～18時
常磐津古正本の書誌的研究と翻刻「汐見瀧松常磐津」1
- 第17回 2016年10月25日(火) 11時～16時
常磐津古正本の書誌的研究と翻刻「汐見瀧松常磐津」2
常磐津家元所蔵正本の書誌調査と修復作業4
- 第18回 2016年11月21日(月) 15時～19時
常磐津古正本の書誌的研究と翻刻「汐見瀧松常磐津」3
- 第19回 2016年11月22日(火) 13時～17時
常磐津古正本の書誌的研究と翻刻「霄袖愛釣人」1
常磐津家元所蔵正本の書誌調査と修復作業5
- 第20回 2016年12月15日(木) 15時～19時
常磐津古正本の書誌的研究と翻刻「霄袖愛釣人」2
- 第21回 2016年12月16日(金) 10時～17時
常磐津古正本の書誌的研究と翻刻「霄袖愛釣人」3
常磐津家元所蔵正本の書誌調査と修復作業6
- 第22回 2017年1月23日(月) 13時～17時
常磐津古正本の書誌的研究と検討「蝶羽風梅暫」「心情語而御神楽」「和事色世話」「道行丸い字」「初深雪花の袖笠」1
- 第23回 2017年1月24日(火) 13時～16時
常磐津古正本の書誌的研究と検討「蝶羽風梅暫」「心情語而御神楽」「和事色世話」「道行丸い字」「初深雪花の袖笠」2
- 第24回 2017年2月2日(木) 16時～19時
ミーティング「2016年度の常磐津古正本の修復作業を振り返って」
場所:京都芸術センター
- 第25回 2017年2月3日(金) 10時～15時

ギャラリートーク・司会「特別展観：常磐津正本の修復と書誌的研究—保存修復専攻とともに音楽研究の原点をつくる—」、場所：日本伝統音楽研究センター展示ギャラリー

ゲストスピーカー：常磐津文字太夫（常磐津節保存会会長）

第26回 2017年3月23日（木）13時～18時

研究報告：(1) 竹内「稽古本初版の決まり事—修復作業から分かったこと—」、(2) 配川「著書紹介、政太郎プロジェクト近況」、(3) 前島「阪東亀寿旧蔵史料の特徴」

第27回 2017年3月24日（金）10時～15時

研究報告：(1) 大西「竹内研究室に寄託された常磐津レコードの試聴と特徴」、(2) 小西・常岡「復曲候補本の読解作業について」

復曲候補本の読み合わせ

ミーティング（今年度のまとめ、来年度の課題）

近世日本における儒学の楽思想に関する思想史・文化史・音楽学的アプローチ

研究代表者：武内恵美子

共同研究（2014年度開始、継続）

共同研究員：明木茂夫（中京大学教授）、遠藤徹（東京学芸大学准教授）、榎木亨（関西大学大学院博士課程後期課程／日本学術振興会特別研究員）、小林龍彦（前橋工科大学名誉教授）、小島康敬（国際基督教大学教授）、高橋博巳（金城学院大学名誉教授）、平木實（天理大学元教授）、南谷美保（四天王寺大学教授）、山寺美紀子（國學院大學北海道短期大学部兼任講師）、渡辺信一郎（京都府立大学名誉教授）

江戸時代の儒学における音楽のあり方は、音楽学的知識と思想史の知識の両方を必要とするが、それぞれの分野で通用するほどに両分野に精通している研究者は申請者も含めて皆無である。それゆえ、それぞれの分野からの共同研究が必須である。本共同研究では、音楽学の立場からは雅楽・琴の研究者を、思想史の立場からは礼楽思想、儒学教育史の研究者を、その他関連事項として和算研究、朝鮮文化研究の研究者を招聘する。それによって思想史・文化史・音楽学の総合的視野から、近世日本において礼楽思想における楽思想がどのように展開したのか、実際にどのような音楽が行われたのか、それによってどのような文化が生じ、他の音楽や文化に影響を及ぼしたのか等について研究する。

第1回 2016年7月16日（土）13:30～18:00

場所：新研究棟7階 合同2

内容：

発表1 山寺美紀子「藤澤東暁と泊園書院の琴——徂徠琴学と心越琴楽の行方」

発表2 榎木亨「日本近世期における『律呂新書』の受容と変容 —蔡元定と中村惕斎・蟹養斎の比較を中心として—」

第2回 2016年7月17日（日）10:30～16:00

場所：新研究棟7階 合同2

内容：

発表 1 高橋博巳「京都の玉堂琴士」

発表 2 遠藤徹「二つの近世再興の催馬楽譜 ～綾小路俊宗と毛利壺邸」

第 3 回 2016 年 10 月 29 日 (土) 13:30～18:00

場所：新研究棟 7 階 合同 2

内容：

発表 1 平間充子「国家儀礼としての百戯と日本における展開
——踏歌節会の淵源および相撲儀礼について」

発表 2 渡辺信一郎「唐代の儀礼と音楽——元会儀礼を例として」

第 4 回 2016 年 10 月 30 日 (日) 14:00～16:40

場所：京都テルサ 大会議室

内容：(第 45 回公開講座)

14:05～15:00 趙維平氏講演「唐代雅楽の伝搬と平安期の「雅楽」

15:00～15:10 休憩

15:10～16:05 スティーヴン・ネルソン氏講演「平安期の「雅楽」

16:05～16:15 休憩

16:15～16:35 座談会(趙先生、ネルソン先生、武内)

第 5 回 2016 年 11 月 13 日 (日) 9:00～12:00

場所：中京大学 1 号館 311 号室

内容：シンポジウム「礼楽思想の楽の諸相」(日本音楽学会全国大会)

パネリスト：小島康敬、小林龍彦、平木實、渡辺信一郎、コーディネーター：武内恵美子

武内恵美子「礼楽思想の楽思想研究概要」

渡辺信一郎「唐代の儀礼と音楽——元会儀礼を例として」

平木實「朝鮮半島の儒学と礼楽」

小島康敬「江戸儒学と「礼楽」思想——徂徠・春台を中心に——」

小林龍彦「和算における律楽研究」

第 6 回 2017 年 3 月 4 日 (土) 13:30～18:00

内容：

発表 1 平木實「朝鮮時代の唐琴(七絃琴)」

発表 2 明木茂夫「南宋張炎『詞源』卷上「結聲正訛」考 ——その犯調の方式と「律呂四犯」との関係性 (附)
曾侯乙墓出土の竹製横笛「箎」について」

第 7 回 2017 年 3 月 5 日 (日) 14:00～16:40

場所：新研究棟 7 階 合同 2

内容：(第 47 回公開講座)

14:05～14:50 高橋博巳氏講演「浦上玉堂の京都」

14:50～15:00 休憩

- 15:00～15:45 遠藤徹氏講演「江戸時代の催馬楽復興～綾小路俊宗と毛利壺邸」および毛利壺邸版催馬楽再現演奏
- 15:45～15:55 休憩
- 15:55～16:40 武内恵美子講演および演奏「浦上玉堂と琴・催馬楽」

梶丸 岳「掛け合い歌の比較研究—即興とやりとりはいかに生み出されるか」

掛け合い歌とは決まった旋律にある程度即興で歌詞をつけて歌を交わしあう芸能である。この芸能では表現の重心が歌詞に置かれるという点に特徴があり、即興でいかに「うまいこと」言いあうかに醍醐味がある。掛け合い歌は世界各地にあり、とりわけ東アジアや東南アジアでは数多く報告されている本研究課題はこうした掛け合い歌それぞれの探究と比較を通じて、掛け合い歌の表現がやりとりのなかでどのように即興で生み出されているのかを明らかにすることを目指すものであった。

これまで私が研究してきたのは中国貴州省で歌われる「山歌」、秋田県で歌われる「掛唄」、そしてラオスで歌われる「カップ・サムヌア」という掛け合い歌である。4月に刊行された『民族音楽学 12 の視点』では山歌と掛唄を事例として取りあげつつ音・声・ことばの関係について概説し、歌には旋律に重点が置かれるものと歌詞に重点がおかれるものがあること、掛け合い歌では旋律が歌詞を入れる「器」のように機能していることを説明した。

5月の口頭発表では、「カップ・サムヌア」がどのようにコンテキストに埋め込まれているのかについて、社会記号論の枠組みを用いて歌詞における指標性を分析することを通じて明らかにした。10月の発表ではこれを参考にしつつ、おもにエスノメソドロジ的な視点から掛唄大会の直会における掛唄の掛け合いが進行しているのかを分析した。

11月と12月の発表ではさらに、掛け合い歌の書かれた歌詞を読むことと歌詞を見ずに歌うことの違いについて、オングのオラリティ/リテラシー論を批判しつつ考察した。ここでは山歌の調査で観察された一場面を事例としながら、フォリーの「レジスター」や「パフォーマンス・アリーナ」といった概念を用いて、文字と歌の関係が歌をささえる価値観によって規定されていることを論じた。

以上は質的側面から掛け合い歌のパフォーマンスを分析する試みであったが、6月に刊行された拙稿では量的手法を用いて、掛唄の「主題」がどのように抽出可能かについて論じた。これについては2017年度に刊行予定の続編でこの方向性に沿った分析によって掛唄の主題がどのように経年変化するかや、どのような主題が共起しやすいかを明らかにする予定である。

今後は以上のような成果を踏まえ、今年度あまりしっかりできなかった現地調査を積極的に行いつつ、さまざまな方向性や手法を試しつつ掛け合い歌のやりとりについて研究を進めていきたい。

◆関連する執筆

- * 2016.04 『民族音楽学 12 の視点』音楽之友社（増野亜子編。4章「音・声・ことば」およびコラム「フィールドワーク」を執筆）
- * 2016.05 『フィールドノート古今東西』古今書院（丹羽朋子・椎野若菜と共編）
- * 2016.06 「掛唄で歌われることはなにか—計量テキスト分析による掛唄の話題抽出の試み」『日本伝統音楽研究』pp.71-86.

◆関連する口頭発表

- * 2016.05.28 「ラオスの掛け合い歌「カップ・サムヌア」におけるコンテキスト—歌のコンテキスト化と記号論的記述」日本文化人類学会第50回大会、南山大学
- * 2016.10.16 「掛唄大会という場—民謡のエスノメソ

ロジー」国立民族学博物館共同研究会「音楽する身体間の相互作用を捉える—ミュージッキングの学際的研究」国立民族学博物館

- * 2016.11.06 「オラリティの可能性—オングを超えて」第67回東洋音楽学会大会、放送大学
- * 2016.12.04 「歌を書くことと歌うこと：中国貴州省の山歌を事例に」東京外大 AA 研共同利用・共同研究課題「中国雲南におけるテキスト研究の新展開」2016年度第2回研究会、東京外国語大学

◆講義・講座等

- * 2016.07.07 「松坂をたどる」伝音セミナー、京都市立芸術大学

◆資料・現地調査等

- * 2016.09.14-2016.09.15 秋田県横手市にて掛唄現地調査

竹内 直 「日本の戦前・戦中期の民謡に基づく作曲」

報告者は昨年度から、とくに松平頼則（1907-2001）の創作と民謡および日本の伝統音楽の採譜との関わりに焦点を当て、調査・研究を進めている。今年度はそれまでの研究の報告を兼ね、松平頼則の音楽と伝統音楽との関わりについて連続講座D「日本の作曲家を聴く」を開催することができた。二日間の連続講座は、両日とも講義のほかに関連作品を取り上げたコンサートを開催した。研究の内容と実演とを少なからず結びつけることができたのは、本学音楽学部長の大嶋義実教授をはじめ、演奏家の協力があったことである。演奏に携わってくださった方々にこの場を借りて御礼を申し上げたい。松平頼則の創作と民謡や伝統音楽の採譜との結びつきは、これまで論じられておらず、ここからさらに調査・研究を進めていく必要を感じている。次年度は、ここまでの成果を論文として発表すると同時に、研究を深める所存である。また一昨年度から行っている研究に関連した音源制作は、今年度も継続して行った。成果の一部は、次年度中にアルバムとして公表する予定である。

最後に連続講座以外の本研究センター内での活動について報告する。本年度は平成28年度伝音セミナー第6回「日本の作曲家を聴く（その2）～能と日本の現代音楽～」を担当した。伝音セミナーでは能の《葵の上》にもとづく外山道子（1913-2006）、黛敏郎（1929-1997）、湯浅譲二（b.1929）の電子音楽作品を紹介した。この時の伝音セミナーの様子は、12月7日付の大阪日日新聞の「関西の音と人」にも取り上げられた。

◆関連する執筆

- * 2016.09 「映画『密輸船』のプリペアド・ピアノ」日本音楽表現学会編『音楽表現学のフィールド2』東京堂出版、pp.222-237。

◆関連する口頭発表

- * 2017.03.23 “Development of Japanese Art Songs in the late 1920's to 1930's and the Formation of an Art Song Canon”, International Musicological Society 2017 Tokyo, Round Table (RT-II-2: The Art Song and Cultural Identity in the Colonial Settings of East Asia and Australia)、東京藝術大学
- * 2017.03.26 “Development of Japanese Art Songs in the late 1920's to 1930's and the Formation of an Art Song Canon”, シンポジウム「20世紀前半の東アジアとオーストラリアにおける芸術歌曲と音楽の近代」、同志社女子大学

◆講義・講座等

- * 大学院音楽研究科：日本伝統音楽研究 fl・fill、日本伝統音楽研究 fill・flV、音楽学特殊研究 mll・mlV
- * 音楽学部：音楽学特講 m

- * 2016.08.09~10 平成28年度でんおん連続講座D「日本の作曲家を聴く——松平頼則の音楽——」（平成28年度宇流麻学術研究助成基金の助成による）

- * 2016.11 平成28年度伝音セミナー第6回「日本の作曲家を聴く（その2）～能と日本の現代音楽～」

◆資料調査・インタビュー等

- * 2016.06.02~04 上野学園大学図書館資料調査、明治学院大学図書館付属日本近代音楽館資料調査
- * 2016.06.24 研究用音源収録（松平頼則歌曲試演）、京都市立芸術大学講堂
- * 2016.09.15 国立国会図書館関西分館資料調査
- * 2016.09.20~22 国立音楽大学附属図書館資料調査、東京文化会館音楽資料室資料調査
- * 2016.09.21 一柳慧氏インタビュー、東京都渋谷区
- * 2016.09.29 研究用音源収録（日本歌曲試演）、京都市立芸術大学講堂
- * 2016.12.24 明治学院大学図書館付属日本近代音楽館資料調査
- * 2017.03.03 明治学院大学図書館付属日本近代音楽館資料調査

中安 真理 「美術に表された音に関する研究」

報告者は仏教美術における音楽表現を主要なテーマとして研究を継続してきた。本年度はその成果のひとつとして、拙著『箏篋の研究—東アジアの寺院荘厳と絃楽器—』を上梓した。箏篋とはかつて東アジアで広く用いられた絃楽器である。正倉院にあるハープ形の箏篋（残欠）のほかに、コト形の箏篋も文献に記されているが、今に伝わる遺品はない。報告者は美術資料・考古資料・文献資料を博搜し、東アジアの仏教建築の軒先には、かつて、コト形の絃楽器（あるいはそれを象ったもの）が飾りとして懸けられており、それは特に日本において箏篋

と呼ばれていたことを明らかにした。その飾りは、仏教経典が説くところの仏国土で自然と奏でられる音楽を象徴すると考えられ、奈良時代から明治初年まで連綿と存在した。今後も引き続き、主として仏教美術における音の表現について研究を行っていく。

また、上記研究と並行して、文殊菩薩の浄土として古くから信仰を集めた中国五臺山に関する調査を進め、五臺山文殊菩薩像の美術表現について、日本への伝来と流布に焦点を当て、国際学術シンポジウムにおいて口頭発表を行った。

学内での活動としては、平成 28 年度第 8 回伝音セミナー「徳川夢声で聴く小説『宮本武蔵』」を担当し、徳川夢声の朗読による「一乗寺下り松の決闘」「巖流島の決闘」のほか、当時、夢声と人気を二分したという市川八百蔵の朗読による「巖流島の巻」も併せて紹介した。ご協力を賜った関係各位に感謝申し上げます。

◆関連する執筆

- * 2016.07.20 『箏篋の研究—東アジアの寺院荘嚴と絃楽器—』思文閣出版
- * 2016.07.20 「高野山の「箏篋」」『鴨東通信 夏』No.102、思文閣出版、pp.10-11

◆関連する口頭発表

- * 2016.08.26 「日本における五臺山文殊菩薩像の美術表現について」五臺山文殊信仰および能海上師生誕 130 周年国際学術シンポジウム、中国五臺山

◆講義・講座等

- * 2016.04 - 2017.03 日本伝統音楽演習 d I、d II、d III、d IV
- * 2016.04 - 2016.08 高野山大学非常勤講師（密教学特殊講義 J）
- * 2017.02.02 平成 28 年度第 8 回伝音セミナー「徳川夢声で聴く小説『宮本武蔵』」

◆現地調査

- * 2017.03.08 島根県雲南市大東町にて海潮山王寺神楽（県無形民俗文化財）現地調査

大西 秀紀 「SP レコードの書誌的研究」

当該年度は報告者が科研費助成を得て調査研究を進めていた、「東洋蓄音器（オリエントレコード）の社史調査とディスコグラフィの作成」（基盤研究（C）、研究課題番号：24520168、2012年4月1日～2016年3月31日）の成果報告を行った。

東洋蓄音器は明治期の東洋蓄音器商会に始まり、大正期の東洋蓄音器株式会社を経て東洋蓄音器合資会社に至った京都のレコード会社で、ラクダ印オリエントレコードを製造・販売した。本研究では東洋蓄音器の変遷を明らかにし、正規盤オリエントレコード855枚、複写盤オリエンツ・ウグイスレコード等664枚のディスコグラフィ（音盤目録）を作成した。これにより東洋蓄音器時代のオリエントレコードの内容に関しては、ほぼ網羅出来たと考える。東洋蓄音器合資会社は大正8年12月に日本蓄音器商会に吸収されるが、オリエンツレーベルはそのまま昭和7年まで続いた。この日本蓄音器商会時代のオリエンツレコードについても、今後継続して調査を行う予定である。

◆関連した執筆

- * 2016.07 「座敷唄収録音源の市販資料一覧」、井澤壽治編『座敷唄集成』、東洋書院
- * 2016.10 「オリエンツの謡曲レコード」、『謡を楽しむ文化—京都の謡の風景』、日本伝統音楽研究センター研究報告11、京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター
- * 2017.03 「歌舞伎音楽のレコード 芝居囃子 忠臣蔵十二ヶ月」、『平成28年版 歌舞伎に携わる演奏家名鑑』、(社) 伝統歌舞伎保存会
- ◆関連した口頭発表
- * 2017.03.10 「京都のレコード会社 東洋蓄音器・オリエンツレコードについて」、藝能史研究会3月例会、キャンパスプラザ京都
- * 2017.03.11 「オリエンツレコードの成立について」、プロジェクト研究「歴史的音源から見る三味線音楽の旋律型研究」、京都市立芸術大学
- * 2017.03.26 「戦後関西歌舞伎の音源」、大阪芸能懇話会、

難波生涯学習センター

◆講座

- * 2016.05.12 平成28年度第1回伝音セミナー「子供のためのレコード」
- 〈使用したレコード〉
- 1 ウントコ爺さん 花房静子・天野喜久代 東京蓄 375/376 (大正4年8月発売)
- 2 ウサウサ兎 花房静子・天野喜久代 東京蓄 381/382 (大正4年7月発売)
- 3 正直正吉 作・口演 巖谷小波 ニッポノホン 15015 (大正12年4月発売)
- 4 ドンブラコ 北村季晴・初子、帝国劇場ヲペラ及オケストラ部員 アメリカン 2386-2395 (大正2年8月発売)
- ◆音源監修・提供
- * 2016.05.29 「住太夫の大大阪」、朝日放送ラジオ (21:00～22:00 放送)

神津 武男 「人形浄瑠璃文楽の近世後期上演記録データベース更新に係る追補的資料研究」

本年度の日本伝統音楽研究センターでの活動は、(1) 山田智恵子先生の研究課題「義太夫節 伝承を失った曲の復元研究とその展開」の研究協力者として参加したこと、(2) 自身が研究代表者を務める研究課題「人形浄瑠璃文楽の近世後期上演記録データベース更新に係る追補的資料研究」を遂行したこと、の2点である。

(1) の研究課題は、人形浄瑠璃文楽がこんにち伝承を失った演目・場面を、近年新たに所在が判明した史料群（配役書入本）に残る楽譜「三味線譜」を活用することで、国立劇場での文楽公演でも復活されずにきた段・場面の復元を試みる、というものである。山田智恵子先生が研究代表者を務められた科学研究費助成事業・基盤研究(B)「人形浄瑠璃文楽の音楽学的復元上演に関する基礎的研究」（課題番号24320042。2012—15年度）の

成果を引継いで、これを発展させることを主旨として、公益財団法人ポーラ伝統文化振興財団の研究助成事業の採択を得て進めるものである。筆者は前記・基盤研究(B)で、浄瑠璃本の資料調査とデジタル画像収集の作業に当たったが、(1)の研究課題においても引き続き、浄瑠璃本の資料調査および必要な資料のデジタル撮影を進めて、基礎資料の作成を担当している。来年度の復曲に向けて、山田智恵子先生と太田暁子先生との研究会を進めた。

(2)の研究課題は、日本伝統音楽研究センターの客員研究員として科研費の申請資格を得て、「研究活動スタート支援」の採択を得たものである。近年、新たに人形浄瑠璃関係史料の所在を把握した機関などがあり、あるいは筆者のその後の研究の進展によって、再調査の必要が判明した機関があった。(2)の研究課題では、これらの人形浄瑠璃関係史料の所在調査・書誌研究を進めて、〈「浄瑠璃本」書誌データベース〉と〈「人形浄瑠璃番付」書誌データベース〉の、ふたつのデータベースについて一層の充実と精度を向上させることを目指す。

浄瑠璃本について新たに調査した機関は、滋賀〈1〉、大阪〈2〉、海外〈1〉である(〈〉内は機関数)。特に大阪の1個人は、浄瑠璃本(通し本)だけでも488冊と数える、大規模なコレクションである。従来知られていなかったばかりでなく、内容においても稀少な史料があって、今後目録化して報告したい。

人形浄瑠璃番付について新たに調査した機関は、大阪〈1〉、名古屋〈1〉である。

また筆者は人形浄瑠璃の歴史研究上の史料として、近年、人形浄瑠璃関係者の墓碑調査を進めている。昭和後期まで存在した近世期の石碑が、平成期に進む墓地の〈再整理〉で失われたと知られる場合もあって、墓碑・碑文の記録は急務である、と指摘したい。過去帳でなく、墓碑そのものの記録が必要であるのは、主に台座に刻まれるところの人名の有無が重要であるからで、葬られる当人が建立当時いかなるネットワークの中に生きたのがここからのみ判明するからである。筆者はこれに関連してインターネットのSNS「ツイッター」上で、近世期の太夫を中心に命日忌日にその略歴を述べるのであるが、11月中旬「滋賀県近江八幡市の長命寺参道に「竹本三根太夫」の石碑がある」と、ツイッターのダイレクトメールとしてお知らせいただいた。添付の写真は正面のみで、文字は「俗名竹本三根太夫」と読めたが他面の情報は無かったので、12月14日訪問し実見。裏面の「天保十年己亥冬」、左面の「釈浄峯」は、天保10年(1839)5月大坂での出演記録を最後に「少し病気にて加賀国山中へ入湯に行」「右入湯が当りて大阪に立帰り養生不叶」に没したとのみ伝わる(『増補浄瑠璃大系図』)、5代三根太夫の戒名・没年と推考した。インターネット社会ならではの奇縁、と感慨深く、合掌した。裏面下部の「願主 竹沢駒造・惣連中」の建立と判ったが、竹沢駒造は文政年間のみで天保頃の活動は不明。人形浄瑠璃史の〈根〉に新たな一筋が見出された。

浄瑠璃本・番付・墓碑の所在に関する情報を、御教示賜りますよう、お願い申し上げます。

◆関連する執筆

* 『時雨の炬燵』成立考 ― 三代竹本綱太夫の添削活動について ― (『早稲田大学高等研究所紀要』第9号、早稲田大学高等研究所、2017年所収)。

* 『「摂州合邦社」下の巻の切「合邦内」現行本文の成立時期について ― 二代竹本綱太夫の添削活動について ―』(『歴史の里』第20号、松茂町歴史民俗資料館・人形浄瑠璃芝居資料館、2017年所収)。

高橋 葉子 「能の略式演奏の歴史と現在」

平成28年度の日本伝統音楽研究センターでの主な活動は、1. 科学研究費助成事業(基盤研究C)「能の略式演奏の歴史と現在―新しい演出形態を構想するために」(平成28年度開始、平成30年度終了予定。研究分担者藤田隆則。)の研究活動、2. プロジェクト研究「音曲面を中心とする能の演出の進化・多様化」での研究、3. プロジェクト研究「京観世の記録化」(平成24年度終了)報告書の出版である。

1. 能の略式演奏とは、①「素謡」「舞囃子」「一調」等の能の部分演奏、および②臨機に行なわれる省略形の能上演など、“完全形態での能上演”以外の演奏すべてを指す。①は、世阿弥の『申楽談義』に見える本業としての「小謡」から現代の素人の稽古事まで、能の歴史に重要な位置を占めるものであり、近代においては素人愛好家によるこれらの活動が能の存続と発展を支えてきた。②は①とともに歴史的に多様な形式で試みられてきたが、本研究では主に玄人による近現代の省略上演を対象としている。①②を通じ本研究は、完全上演の能に対する「二次的芸術」として従来本格的な学術研究が行われてこなかったこれらの分野を能の歴史に正しく位置付けることを意図し、さらに、能の実践と理念における「省略可能なもの」と「省略不可能なもの」を発展的に捉え直すことにより、能の形態の可能性についての今日の提起を目指すものである。28年度は、京都で数代にわたって一族で能に関わってきた愛好家三組、および多彩な上演経験を持つ玄人一名へのインタビュー調査を分担者とともに行った（6月、7月、11月、29年3月）。また、謡の記譜法は近代の素人愛好家の増大が契機となって整備、体系化されている。その体系化の歴史的研究として、観世流近代謡本における「ウキ」の変遷を調査した。その成果として、過去のヨウ吟の旋律パターンに新たに加えるべき音進行と、その廃絶の経緯、江戸後期から近現代までの「ウ」の用法の変遷を明らかにした。これは2のプロジェクト研究において昨年度発表した「江戸中期観世流の中音域の旋律について」を補訂発展させたものである。

2. 10月定例研究会において、上記の研究「明和改正謡本の節付「ウ」」を発表し、11月の東洋音楽学会大会で発表を行なった。

3. 昨年度から引き続き編集・執筆作業を行っていた報告書『謡を楽しむ文化—京都の謡の風景』を10月に刊行した。上記の研究「明和改正謡本の節付「ウ」」は、当プロジェクトで行った岩井家謡伝書『そなへはた』の研究が基となっている。

新年度は、科研費とプロジェクト相互の研究を連動させながら、各種の演奏形態の歴史研究と、謡の理論化の歴史研究を引き続き進めたい。また玄人および能楽関係者との連携を広げつつ、実践と理念の双方から発展的上演形態の可能性へ向けた研究調査を進めてゆきたい。

◆関連する執筆

- * 2016.06.30 「江戸中期における謡曲音階論の形成—岩井直恒の十段音法を考察する」日本伝統音楽研究センター研究紀要『日本音楽研究』第13号
- * 2016.10.30 『『能囃子心得』解題と翻刻』日本伝統音楽研究センター 研究報告11『謡を楽しむ文化—京都の謡の風景』
- * 2016.10.30 「岩井直恒音曲伝書『あやはとり』解題と翻刻」（大谷節子と共著）同上
- * 2016.10.30 『『そなへはた』を現代語訳する試み—序文、凡例、音の部、吟の部』（藤田隆則、丹羽幸江と共著）同上
- * 2017.03.30 「謡本から見た梅若家と観世喜之家—近代観世流の節付改革」『武蔵野大学能楽資料センター紀要』第28号

◆関連する発表

- * 2016.11.06 東洋音楽学会第67回大会発表「明和改正謡本の節付「ウ」—江戸中期能楽観世流の中音旋律—」

◆講座

- * 2017.03.02 平成28年度第9回伝音セミナー「下掛宝生流の謡を聞く」日本伝統音楽研究センター

◆その他の執筆

- * 2016.08 舞台紹介：《鐵門》—京都観世会「復曲試演の会」『観世』8月号 檜書店
- * 2016.09 報告：【例会ノート】関西例会・第二十四回能楽フォーラム「この人に聞く—新・人間国宝、三島元太郎氏—」『能と狂言』第14号 能楽学会

◆調査活動

- * 成城大学民俗学研究所『浅野太左衛門家旧蔵資料の総合的研究』（研究代表者大谷節子）継続中。
- * 2016.08 「能楽囃子太鼓方観世流に見る伝授と受容の諸相—『入門者摘録』研究」（研究代表者三浦裕子）への協力参加。

◆対外活動

- * 武蔵野大学能楽資料センター 非常勤研究員
- * 京都造形芸術大学芸術学部通信教育部芸術学科 非常勤講師

丹羽 幸江 「祝詞の音楽研究と能の楽譜研究」

1、祝詞の音楽研究

神道の祝詞は、祈りの言葉であるとともに、歌というものの起源と考えられてきた。現在の神社神道では祝詞は言葉として唱えられるのみで、旋律的に歌われることはほとんどない。しかし江戸時代以前には、楽譜記号が記された祝詞も発見されており、音楽的な内容を持つ祝詞もあったと推定されてきた。本研究では、そうした祝詞の楽譜を解説し、こういった「歌」がもっとも古い歌へと繋がっていくのかと考察することを目的とする。

研究の柱は、①これまで報告された祝詞楽譜に加え、新たな祝詞楽譜を発見し、それらを解説すること。②現在の祝詞が唱えられる環境や、その唱えられる背景を明らかにすること。③仏教声明や能といった、祝詞の周辺の芸能から、かつて歌われていた祝詞の音楽を明らかにする、この三点である。

28年度は、①について、これまで先学により報告されてきた祝詞楽譜に加え、天理大学所蔵吉田文庫の大祓祝詞に楽譜記号のある祝詞が複数存在することを調査し、これらの解説を行った。これらの楽譜では一様に能の記譜法が借用されていること、そして記号の一貫性から江戸期から明治にかけての伝承が見られることが明らかになった。能の謡の記譜法が借用された理由について、吉田神道と猿楽者のあいだでの翁伝授という上演裁可状をめぐっての交流があったためと推測した。日本音楽学会第63回全国大会（於中京大学、28年11月）において口頭発表を行い、昭和音楽大学紀要36号（29年3月）に論文の執筆を行った。

②の祝詞を唱えることの意義に関しては、現在の神社神道において唱えられる祝詞の音楽面での伝承のあり方は、天皇による非公開の祝詞を、神職が仰ぐべき規範としている。このため、祝詞の音楽的技法に関する訓練が行われているにもかかわらず、言説が存在しないという伝承の構造を明らかにした。International Council for Traditional Music, MEA Symposiumにおいて（於台北中央研究院、台湾、28年8月）口頭発表を行った。

③に関しては、声明のなかでも日本語の語り物的要素を持つ講式は、祝詞から影響を受けたことが岩原諦信により指摘されてきた。このため、本学修士過程学生の僧侶、吉岡倫裕氏より、真言宗南山進流の四座講式について、楽譜の読み方・唱え方の伝承を受けた。29年度には成果をまとめ、口頭発表を行う予定である。また、能の番組の一部で【ノット】という宗教者が祝詞を唱える小段がある。これらの調査を行い、29年度には論文執筆予定である。

2、能の楽譜研究

まず、プロジェクト研究「京観世の記録化」の成果物である『謡を楽しむ文化』の編集に加えていただき、編集作業のお手伝いをさせていただいた。研究会メンバーの力作が揃い、無事10月に出版の運びとなった。

次に室町末期の能の楽譜研究として、室町末期以降の上演記録がなく、現在廃曲となっている《伏木曾我》の復曲上演に参加し、節付の復曲にたずさわった。（湘南ひらつか能狂言、第6回にて上演）

《伏木曾我》には様々な伝本があるが、東京大学史料編纂所所蔵の観世元頼本を底本とし、復曲を行った。室町末期の謡本の記譜法は未解明な部分が多いものの、そのなかでも観世元頼の節付は、記号の質量ともに優れており、胡麻の向きなどの楽譜記号を損なわないよう忠実な復曲に努めた。復曲の結果は、能楽師加藤眞悟氏を中心とする平塚市文化財団主催の能楽公演での上演のための謡本として出版された。

◆関連する執筆

- * 2016.10 『謡を楽しむ文化 -- 京観世とその周辺』（藤田隆則・高橋葉子・丹羽幸江編）京都市立芸術大学。
- * 2016.10 論文『「そなへはた」現代語訳』（藤田隆則・丹羽幸江・高橋葉子）、『謡を楽しむ文化 -- 京観世とその周

辺』、pp.127-154。

- * 2016.11 謡本『復曲《伏木曾我》』伏木曾我復曲検討会（加藤眞悟、丹羽幸江、伊海孝充）、檜書店。
- * 2016.03 論文「大祓祝詞の楽譜」昭和音楽大学研究紀要36号、pp.6-16。

◆関連する口頭発表

- * 2016.08 “Standard Methods of Chanting Shinto Ritual Prayers” International Council for Traditional Music, MEA Symposium, 台北中央研究院、台湾。
- * 2016.11 「吉田文庫の大祓祝詞の楽譜」日本音楽学会第

63 回全国大会、中京大学。

◆上演プロデュース、口述活動

- * 2016.11.26 湘南ひらつか能狂言第 6 回「伏木曾我」節付復曲担当、および当日の解説。

前島 美保「歌舞伎囃子に関する劇書・伝書の研究」

本研究は、歌舞伎囃子に関する劇書や伝書の史料研究を通して、近世から近代にかけての伝承のあり方を考察することを目的としており、2016 年度より科学研究費基盤 (C) の助成を受け研究を進めている。これは日本学術振興会特別研究員の研究課題「上方歌舞伎の音楽演出に関する総合的研究」の一部をなすものでもあるが、とくに本研究と関連する活動について、以下報告する。

①『芝居囃子日記』に関する調査・研究

本研究は、近世から近代にかけての歌舞伎囃子を伝える「劇書」と「伝書」という二つの史料群を包括的に調査・収集し、既出史料の見直しと新出史料の検討を通じて、歌舞伎囃子の史料研究の基盤を整備することを目的とする。

今年度は、まず『芝居囃子日記』の研究史の把握と諸本調査、および周辺史料の調査・検討を集中的に行った。六代目田中伝左衛門『芝居囃子日記』は原本が伝存せず、二系統の写本によって伝えられている。とくに大正十三年 (1924 年) に模写された町田本 (町田佳聲旧蔵本) は現存諸本の中でも最善本として知られ、これを西山松之助が筆写したものが『日本庶民文化史料集成』第六巻 (1973 年) に活字翻刻化されるなど影響力が大きい。この町田本が東京文化財研究所に所蔵されていることが判明し、この度改めて調査・翻刻・検討した。その結果、音楽内容に関わる部分で町田本と活字本との異同が散見された。また『日本庶民文化史料集成』の解題に記された『芝居囃子日記』の諸本のうち、黒木本や高野本は現存不明であることが旧蔵機関などへの照会でわかったほか、解題の諸本系譜には記されていない杵屋本を底本とする翻刻が、雑誌『長唄』(長唄書院、1933 年 11 月～1934 年 6 月) に部分掲載されていることも確認した。以上の調査研究は、研究分担者 (土田牧子) や大学院生と定期的に研究会を開催して行い、その成果の一部は、東洋音楽学会第 67 回大会にて口頭発表した (前島美保・土田牧子・鎌田紗弓・木岡史明「『芝居囃子日記』再検」)。

②上方歌舞伎囃子方旧蔵資料の調査・整理

昨年度発掘した昭和期上方歌舞伎で活躍した長唄唄方杵屋胡金吾 (1924～2009) の遺品資料を調査した。全 137 点の資料は主に唄本や写真、音声資料 (オープンリール、カセットテープ) から成り、とくに音声資料は自らノートに整理して保管し、再編集するなど大事にしていた様子が窺われた。オープンリールの内容確認と整理には時間を要しており、全デジタル化には及ばなかったが、再生できたものの中には胡金吾はじめ、杵屋富造、中村美秋、実父阪東徳寿郎など昭和の上方の囃子方の演奏を聴き確かめることができた (竹内有一・前島美保「昭和の関西歌舞伎の音楽を聴く」、平成 28 年度前期伝音セミナー第 4 回にて口頭発表)。一方、明治後期の長唄の名人阪東小三郎 (1846～1907) の脇を勤めた唄方で、主に明治から大正期にかけて上方歌舞伎で活躍した阪東亀寿の旧蔵唄本を入手し、調査した (「長唄唄方阪東亀寿旧蔵史料について」、東洋音楽学会東日本支部第 94 回定例研究会にて口頭発表)。61 点の亀寿自筆の唄本類からは、当時黒御簾で使用されていた唄を一覧できるほか、初代市川右團次や初代中村鴈治郎ばかりでなく、女役者や上方舞の地方をもつとめるなど、近代上方の囃子方の活動範囲、曲のレパートリー、交友関係等を具体的に窺い知ることができる。今後も胡金吾と亀寿の旧蔵資料について考察を深め、近いうちにまとめたい。

◆関連する執筆

- * 2017.02 論考「演奏家でたどる近代の上方歌舞伎の音楽」、「文献資料一覧」、「平成 28 年度歌舞伎に携わる演奏家名鑑」、社団法人伝統歌舞伎保存会
- * 2017.03 報告「丹生の太鼓踊りの拍子一伝承と歌本一」、『丹生太鼓踊り調査報告書』

◆関連する講座、発表等

- * 2016.08.04 竹内有一・前島美保「昭和の関西歌舞伎の

音楽を聴く」、平成 28 年度前期伝音セミナー第 4 回、日本伝統音楽研究センター

- * 2016.11.06 前島美保・土田牧子・鎌田紗弓・木岡史明「『芝居囃子日記』再検」、東洋音楽学会第 67 回大会、放送大学
- * 2017.02.04 「長唄唄方阪東亀寿旧蔵史料について」、東洋音楽学会東日本支部第 94 回定例研究会、共立女子大学

時田 アリソン

受賞

第 33 回田邊尚雄賞

京都新聞大賞 (文化学術)

第 28 回 (2016 年度) 小泉文夫音楽賞

◆研究活動

科学研究 (代表) 基盤研究 C 「植民地における近代音楽の帰属意識—東アジアとオーストラリアの芸術歌曲の場合」平成 27 年~29 年 課題番号 15K02117

* 2017.03.25 レクチャーコンサート「芸術歌曲の誕生と音楽の近代」京都府民ホールアルティ (大学移転プレ事業)

* 2017.03.26 国際シンポジウム「植民地における近代音楽の帰属意識」同志社女子大学 *The Art Song and Musical Modernity in East Asia and Australia in the First Half of the 20th Century*.

国際日本文化研究センター共同研究会「浪花節の生成と展開についての学際的研究」班員

ジュネーブ高等音楽院の F. ビッジ先生と「Oulomenen: イタリアと日本の語り物の比較研究」

◆著作活動

「芸術歌曲による日本、朝鮮、中国における近代音楽の帰属意識の形成」

The Formation of Modern Musical Identity in Japan, Korea and China through the Art Song 『日本伝統音楽研究』13号、pp.25-45

“Katari Traditions”. *A history of Japanese theatre*, edited by Jonah Salz. Cambridge [England]: Cambridge University Press, 2016. Pages 21-23. ISBN: 9781107034242 (hardback)

“The Singer of Tales as Itinerant Performer: The Michiyuki Trope”. *Beyond Contamination:*

Corporeality, Spirituality, and Pilgrimage in Northern Japan.

Edited by Peter Eckersall. Keio University Art Center, Tokyo, 2016, pages 224-242.

ISBN: 978-4-9909155-0-6

書評: *Not by Love Alone: The Violin in Japan, 1850-2010* by Margaret Mehl. Sound Book Press, 2014. xii+533 pages. ISBN 978-8799728312 (paperback)

Japan Review, No. 29, pages 228-229.

DVD 評: *Itako: Nakamura Take*. 2013. Edited by Kojima Tomiko, Komoda Haruko, Sawai Kuniyuki, Sumi Miyako, Nakayama Ichiro. Produced by Group for Recording the Activities of the Itako, Nakamura Take. In Japanese. 5 hours 48 minutes. Colour, 2 DVDs. 6 CDs (5 hours 48 minutes) and one book (306 pp. in Japanese, 20 pp. in English). Osaka: AD POPOLO Inc. ISBN-13: 978-4990336042.

Yearbook for Traditional Music, vol. 48, 2016, pages 240-241

京都新聞 夕刊 コラム「現代のことば」

2016 年 4 月 1 日「芸術歌曲」

2016 年 6 月 1 日「日本伝統音楽研究センター 15 年」

◆講演・口述活動

* 2016.07.30 東洋音楽学会西日本支部第 273 回定例研究会 《田邊尚雄賞受賞記念講演》「Japanese Singer of Tales」執筆を通して見えてきた日本の語り物、世界

* 2016.08.15 NHK World 番組「70 Years of Wandering Storytelling Artist Koryu 港家小柳 70 年の旅路」のために取材を受ける (09.17 放送)

* 2016.08.25 - 27 ICTM 5th Symposium of the Study Group on Musics of East Asia 中央研究院 (台北) に出席

- * 2016.09.22 国際日本文化研究センター「浪花節」共同研究会「浪花節の口頭性：『左甚五郎』シリーズを中心に」
- * 2016.10.14 シンガポール大学国際会議 “Contemporary Traditions: Japanese Performance Genres Today” *The “Heike Brothers” and the 700-year transmission and reception of heike musical narrative.*
- * 2016.10.23 モスクワ音楽院 “Musical Map of the World”, *Japanese Story-singing: From heike to naniwa-bushi.*
- * 2016.10.31 第2回文化庁移転連続講座「プロフェッショナルに聞く！～文化庁移転と文化芸術の未来～」誓願寺。テーマ「プレイヤーがいない！？材料がない！？伝統音楽の未来」<http://www.kac.or.jp/events/19567/>
- * 2016.11.14 – 18 ジュネーブ高等音楽学院「日本の語り物」の集中講義を行う。
- * 2016.11.16 ジュネーブ高等音楽学院、公開講演 “Katarimono” : *From Heike to Naniwa-bushi.*
- * 2016.12.09 第4回「全国邦楽合奏フェスティバル」前夜祭～あわ邦楽サミット～（徹底討論！邦楽未来への行動）神山温泉 ホテル四季の里 於C分科会「次代リーダーを育てるためにやるべきこと」に登壇
- * 2017.03.23 国際音楽学会 IMS Tokyo 2017 Roundtable, *The art song and cultural identity in the colonial settings of East Asia and Australia*
- * 2017.03.26 同志社女子大学、*A Transnational Perspective on Art Songs, Composers and the Formation of a Modern Musical Identity in East Asia and Australia, focusing on Two Modest Composers: Linda Phillips (1899-2002) and Chen Tianhe (1911-1955)*

◆教育・講義活動

- * 2016.08.16～18 連続講座E PENDULUM 英語による日本音楽概論
- * 81042 日本伝統音楽演習 a II・a IV The

sociology of music in globalizing East Asia
(東アジアの音楽と近代)

◆調査・取材活動

- * 2016.04.09 大阪、一心寺門前浪曲寄席
- * 2016.05.09 大阪、一心寺門前浪曲寄席
- * 2016.08.08 大阪、一心寺門前浪曲寄席
- * 2016.09.11 大阪、一心寺門前浪曲寄席
- * 2016.10.10 大阪、一心寺門前浪曲寄席
- 2017.01.06 近代音楽館、東京
- * 2017.01.07 東京、木馬亭

◆委員会

- 教育研究審議会
- 施設整備委員会
- 学術交流推進委員会
- 自己点検・評価委員会
- 全学人事組織委員会
- 全学入試委員会
- 芸術資源研究センター運営委員会
- 安全衛生委員会

◆対外活動

- 国際日本研究センター 運営委員会会員
- 京都市芸術文化奨励制度審査員
- 京都市新人賞審査委員

◆所属学会など

- 国際文化会館 (1976-)
- 東洋音楽学会 (1978-)
- 日本音楽学会 (1993-2005; 2010-)
- 楽劇学会 (1993-)
- 口承文芸学会 (1995-2010)
- 日本漫画研究学会 (2004-2010)
- 芸能史研究学会 (2010-2015)
- オーストラリア学会 (2010-)
- Musicological Society of Australia (1978-)
- Asian Studies Association of Australia (1978-)
- Japanese Studies Association of Australia (1978-)
- Japanese Studies Centre, Melbourne (1981-)
- East Asian Library Resources Group of Australia (1993-)
- Association for Asian Studies (1996-)

Korean Studies Association of Australia (1999-)
Australia-Japan Society of Victoria (2000-)
British Association for Japanese Studies (1995-2001)
Japan Anthropology Workshop (1995-)
European Association for Japanese Studies (1997-)
International Council for Traditional Music (ICTM) (2007-)

山田 智恵子

◆著作活動

- * 2016.06.10 エッセイ『『何か』を残したい』『季刊上方芸能 (最終巻)』200号、p.122
- * 2016.06.30 DVD『義太夫節の精華 竹本駒之助 九段目を語る』第43回公開講座 (2015.11.28) 記録、123min、企画・構成：山田智恵子、撮影・制作・デザイン：東正子。
- * 2016.11.17 DVD『義太夫節 通し狂言の復曲』第44回公開講座 (2016.03.02)、科学研究費成果報告試演会記録、120min、企画・構成：山田智恵子、撮影・制作・デザイン：東正子。
- * 2017.03.31 公開講演会〈楽劇のコトバ—表現の多様性〉記録「義太夫節の詞の技法—豊竹嶋太夫師に聞く」『楽劇学』第24号、pp.54-63、楽劇学会。
- * 2017.03.31 単著『義太夫節の語りにおける規範と変形—地合の音楽学的研究—』(京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター研究叢書2)、京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター。

◆講座・講演・口述活動

- * 2016.05.11～07.13 「音楽としての義太夫節」でんおん連続講座A、毎水曜日、13時～14時30分、全10回。
- * 2016.05.28 「豊竹嶋太夫師に聞く 義太夫節における地合と詞」企画・構成、聞き手。2016年度伝音プロジェクト研究 (研究代表者 山田)、第1回研究会、合同研究室1。

- * 2016.07.03 「第24回楽劇学会大会公開講演会『楽劇のコトバ 表現の多様性』」、「義太夫節の詞の技法—豊竹嶋太夫師に聞く」聞き手。国立能楽堂大講義室。
- * 2016.08.28 解説「女流義太夫 竹本駒之助の至芸『良弁杉由来 二月堂の段』」[エコール ドロイヤル] 特別公開講座、リーガロイヤルホテル。
- * 2017.03.03 講演「京都と人形浄瑠璃『義太夫節』」[京あるき in 東京 2017, 京都の大学による特別講座 京の知を深める三日間] 京都造形芸術大学外苑キャンパス。
- * 2017.03.11 研究発表「町田の『木やり歌』研究を考える」2016年度伝音プロジェクト研究 (研究代表者 山田) 第5回研究会、合同研究室2。

◆教育活動

- * 日本伝統音楽研究、日本伝統音楽基礎演習、原典講読 (後期)、大学院音楽研究科科目。
- * 「音楽としての義太夫節」関西学院大学文学部「総合G」講義。
- * 独立行政法人日本芸術文化振興会伝統芸能伝承者養成「文楽」研修、「義太夫節」講義。

◆調査・研究活動

- * 公益財団法人ポーラ伝統文化振興財団助成研究「義太夫節 伝承を失った曲の復元研究とその展開」(平成28～29年度)、朱入り浄瑠璃本調査。研究会開催。

◆学内活動

- * 京都市立芸術大学理事。

◆対外活動

- * 所属学会
日本音楽学会、東洋音楽学会、楽劇学会
- * 関西学院大学非常勤講師
- * 独立行政法人日本芸術文化振興会伝統芸能伝承者 (文楽) 養成講師
- * 公益財団法人文楽協会評議員

藤田 隆則

◆著作活動

- * 2016.06 研究ノート「能の教授における「自得

空間』『神戸女子大学古典芸能研究センター紀要』
10号 pp.138-144

- * 2016.09 書評「高桑いづみ著『能・狂言 謡の変遷—世阿弥から現代まで』」『能・狂言』14号 (2016年3月号) pp. 136-139
- * 2016.10 高橋葉子、丹羽幸江との共同編集『謡を楽しむ文化—京都の謡の風景』日本伝統音楽研究センター研究報告11、295頁、京都市：京都市立芸術大学。このうち「序」6頁分(頁番号なし)を単独で執筆、『『そなへはた』を現代語訳する試み』(pp.127-154)を高橋葉子、丹羽幸江と共同執筆。

◆口述活動

- * 2016.04.02 Paper presentation. "Narrative persona dissolved in unison singing: Warrior's narration of *Noh* drama." A symposium organized by Elizabeth Oyler, held on 2nd April 2016, at the University of Illinois.
- * 2016.04.04/06 Workshop. "Chanting and music of *Noh* drama." Held on 4th and 5th of April 2016, at the University of Illinois.
- * 2016.5月—7月(毎週水曜日、全10回)講義「でんおん連続講座B 能の囃子・音曲の骨組みを理解する」27年度前期 京都市：京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター
- * 2016.06.27 発表「儀礼をめぐる時間の感覚と参加のあり方—様々な宗教を横断して考える」宗教的感動を共有できる法要・葬送儀礼研究会、京都市：浄土真宗本願寺派総合研究所
- * 2016.08.17 Lecture and workshop. "Music of *Noh* drama." In Pendulum, intensive three days course in Japanese music, organized by Alison Tokita from 16th to 18th of August, 2016. Kyoto: Kyoto City University of Arts.
- * 2016.09.11 ワークショップ「うつしから学ぶ—能楽の謡、笛、太鼓—五人囃子の声と音」
拡張された場におけるアートマネジメント人材育成事業「状況のアーキテクチャー」京都市：京都市立芸術大学
- * 2016.11.26 講演「民俗芸能における歌舞の儀礼性—古典芸能の民俗芸能をつなぐもの」京都市：神戸女子大学
- * 2016.12.25 司会担当「文化庁伝統音楽普及促進事業—能は面白い」(代表：河村晴久)、京都市：河村能舞台
- * 2017.01.28 講演「声明のおもしろさ—修正大導師作法勤修にさきだって」第13回西六条魚山会「声明の夕べ」京都市中京区：浄土真宗本願寺派正光寺
- * 2017.02.26 講演「声明の記譜法について」芸術資源研究センター主催公演「五線譜に書けない音の世界」京都市：@KCUA
- * 2017.03.13 Lecture. "*Kakegoe*, the drum calls of *Noh* play, a Japanese medieval theater." In the class organized by Jaroslaw Kapuscinski. Stanford: Stanford University.
- * 2017.03.03 司会担当「文化庁伝統音楽普及促進事業—能は面白い」(代表：河村晴久)、東京：セルリアン能楽堂

◆プロデュース活動

なし

◆調査・取材活動

- * 継続中 謡曲・能の囃子の伝承にかかわる調査

◆学内活動

- * 国際交流委員会委員(前期のみ)
- * 学術交流推進委員会委員(前期のみ)
- * 京都市立芸術大学教育研究審議会委員(前期のみ)
- * 京都市立芸術大学芸術資源研究センター運営委員(前期のみ)
- * 京都市立芸術大学大学院音楽研究科兼任(日本音楽研究専攻の授業担当、前期のみ)
- * 京都市立芸術大学学内非常勤(担当科目：民族音楽学(前期)／音楽学(前期))

◆対外活動

- * 東洋音楽学会理事(編集事務局(8月まで)、支部事務局(9月より))
- * 神戸女学院大学音楽学部非常勤講師(2016.09-2017.03)
- * 滋賀大学非常勤講師(2016.04-2017.03)

- * 文化庁芸術祭執行委員会審査委員（演劇部門）
- * 所属学会 日本音楽学会、楽劇学会、東洋音楽学会、能楽学会、音楽教育学会、芸能史研究会、International Council for Traditional Music、Society for Ethnomusicology

田 敏 智 志

◆論考

- * 2017.03.31 「丹生の太鼓踊りの歌旋律一類似旋律の分布と替え歌の伝統」、奈良県教育委員会事務局文化財保存課編『丹生の太鼓踊り—奈良県無形民俗文化財・下市町無形文化財調査報告書—』第六章 pp66-75、下市町文化遺産活用実行委員会発行。

◆映像監修（共同）

- * 2016.12 DVD『吐山の太鼓踊り』『丹生の太鼓踊り』、奈良の文化遺産を活かした総合地域活性化事業実行委員会制作・著作。発行年月表記：2016.3。

◆講演活動（実演つき）

- * 2016.04.16 「能『玄象』のモデル藤原師長の音楽人生—琵琶・箏の腕前で名を馳せた太政大臣—」、たからづか能関連講座、宝塚ソリオホール、演奏曲：会殿楽（仁智要録+会殿楽声歌譜）・啄木・団乱旋入破（三五要録）。
- * 2015.10.02 「平成28年度宇治市源氏物語ミュージアム企画展 源氏物語の音楽ギャラリートーク」、同館企画展示室、演奏曲：水調 海青楽（仁智要録）・想夫恋（経信琵琶譜）。
- * 2016.12.01 伝音セミナー第7回「舞楽いろいろ—映像でめぐる地方の伝承—その2」、当センター合同研究室1。
- * 2017.02.10 「平安末期の京都に鳴りひびく雅楽—古楽譜の解読と『平家物語』に描かれた演奏場面—」、京都アスニー ゴールデン・エイジ・アカデミー2月期『輝ける京の文化』第2回、演奏曲：想夫恋（仁智要録+極楽声歌）。
- * 2017.03.10-11 でんおん連続講座H「音楽実践をもって徳を積む—平安末期・鎌倉期の管絃講（往生講式）、そのこころ—」、10日レクチャー於当セ

ンター合同研究室1、11日専修寺京都別院往生講式（管絃講）、演奏曲：順次往生講式式文（声塵要抄等による）・大経上伽陀・廻向伽陀（以上真宗高田派現行声明による）・萬歳楽・三台急・五聖楽破・同急・往生急（以上S.ネルソン氏訳譜による）・只拍子 想仏恋・只拍子 陪臚・八句念仏・楽拍子 甘州・楽拍子 郎君子・伊勢海・更衣、演奏：鷹阪龍哉・中川佳代子・上野正章・今由佳里・中尾薫・管亭安・吉岡倫裕・陳宗彤・伊藤慶佑・田敏・グルピンスカヤ、ナタリヤほか。

◆展示

- * 2016.07.23～11.23 「仏国憧憬—秀衡と義経、守るべき平泉の光—」、平泉文化遺産センター世界遺産登録5周年記念特別展、唐楽壺越調 酣醉楽急の古譜演奏音源再生展示、演奏：伊藤慶佑・陳宗彤・田敏。2017.02.04～再展示「罇飴（はくたく）の宴—藤原道長 春日詣の献饗・天下泰平の祈りが込められた古代の罇飴は日本の郷土食のルーツ—」、風俗博物館平成29年2月～5月期展示。
- * 2016.09.14～11.27 「源氏物語の音楽」、平成28年度宇治市源氏物語ミュージアム企画展、青海波（詠、唱歌、垣代音取つき）・胡蝶楽（破、急）・想夫恋・陵王（荒序、入破）・高麗壺越調 酣醉楽（破、急）の古楽譜演奏の音源再生展示、演奏：伊藤慶佑・陳宗彤・吉岡倫裕・田敏。

◆出演

- * 2016.04.21（放送）“Traditional Musical Instruments: Eternal Tones Waft through the Ancient Capital”, Core Kyoto, NHK World TV、演奏曲：伊勢海（仁智要録）。

◆調査

- 因幡の麒麟獅子舞調査（鳥取県・兵庫県内）
- * 2016.04.09 城山神社祭礼鹿野祭り（鹿野町）
- * 2016.04.10 母木神社例祭（気高町）・伊蘇乃佐只神社例祭（八頭町）・栖岸寺千日法要双盤念仏（鳥取市）
- * 2016.04.23-24 三山口神社例祭（鳥取市）
- * 2016.05.02-05 安長神社例祭・松上神社例祭・日吉神社例祭（以上鳥取市）
- * 2016.06.18-19 第1回調査専門部会会議（県

庁)・民俗芸能フォーラムー語り合おう!それぞれの麒麟獅子舞への思いー取材(鳥取市文化センター)

- * 2016.09.19 千谷三宝荒神社例祭(新温泉町)
- * 2016.09.28-29 三柱神社例祭・山宮神社例祭(以上新温泉町)
- * 2015.12.10 アコヤ楽器店聞き取り(鳥取市)・第2回調査専門部会会議(県庁)

風流太鼓踊り調査(奈良県・和歌山県内)

- * 2016.08.13 小原盆踊り(十津川村)
- * 2016.08.15 若宮八幡神社嵯峨谷神踊り(高野口町)・野迫川盆踊り(野迫川村)
- * 2016.08.16 古沢巖島神社傘鉾・椎出巖島神社鬼の舞(九度山町)

その他

- * 2016.05.14 當麻寺練供養会式(奈良県葛城市)
- * 2016.07.16 山名神社山王祭舞楽(静岡県森町)
- * 2016.11.03 毛通寺秋の藤原まつり延年舞(岩手県平泉町)

◆学内活動

- * 担当科目:日本音楽史I(音楽学部)、日本伝統音楽研究、日本伝統音楽基礎演習(大学院音楽研究科)。
- * 附属図書館芸術資料館運営委員会、自己点検評価委員会、ギャラリー@kcuca 運営委員会、学生委員会。
- * 大学院修士入試委員会、教務委員会。

◆対外活動

- * 奈良県民俗調査・記録作成委員会委員。
- * 鳥取県文化財保護審議会無形文化財・民俗文化財部会「因幡の麒麟獅子舞」調査専門部会専門委員。

竹内 有一

◆著作活動

- * 2017.03.31 編著『常磐津節演奏者名鑑 第6巻一近代4:明治期から昭和期まで(中)一』(常磐津節演奏者の経歴に関する調査報告書2016年度、文化庁補助事業)、常磐津節保存会、118pp
- * 2016.11.27 研究ノート「関西の常磐津と協会創立」、『関西常磐津協会設立七十五周年記念演奏

会』パンフレット、関西常磐津協会、pp.18-19

- * 2017.02.22 研究ノート「浮世絵師が捉えた歌舞伎の演奏家」、伝統歌舞伎保存会編『平成28年版 歌舞伎に携わる演奏家名鑑』、伝統歌舞伎保存会、pp.27-33
- * 2017.02.12 編集『長唄の形と道一立誠校で今藤政太郎客員教授にきくー』パンフレット、日本伝統音楽研究センター第46回公開講座、16pp
- * 2016.05.14 解説「長唄:吉原雀」「尺八:竹籟五章」「地歌舞:八島」「長唄舞踊:藤娘」「箏曲:水の変態」「地歌舞:吾妻獅子」、「出演者素描」(8名)、国立文楽劇場第32回舞踊・邦楽公演『新進と花形による舞踊邦楽鑑賞会』パンフレット、日本芸術文化振興会、pp.3-8
- * 2016.10.08 解説「常磐津節:宗清」「清元節:三千歳」「宮園節:夕霧由縁の月見」「新内節:明烏夢泡雪一浦里雪責の段一」「義太夫節:ひらかな盛衰記一神崎揚屋の段一」「常磐津節:新山姥」「清元節:青海波」「義太夫節:心中天網島一大和屋の段一」「一中節:松襲」(以上、曲目と出演者紹介)、国立劇場179回邦楽公演『国立劇場開場50周年記念 邦楽鑑賞会』パンフレット、日本芸術文化振興会、pp.7-21
- * 2016.10.15 解説「長唄:島の千歳」「清元:傀儡師」「常磐津:そばやの三ツ面」「一中節:都見物左衛門」「常磐津:山姥」「地歌:閨の扇」「長唄:吉原雀」「義太夫:関寺小町」「地歌:葵上」、国立文楽劇場第34回舞踊公演『東西名流舞踊鑑賞会』パンフレット、日本芸術文化振興会、pp.6-16
- * 2016.09.26 レポート「田邊尚雄賞受賞記念講演:時田アリソン」(第273回定例研究会)、『東洋音楽学会西日本支部だより』84、pp.4-5
- * 2017.01.31 レポート「第76回大会レポート:シンポジウム「東洋音楽学会と柴田南雄一学会創立80周年と柴田南雄生誕100周年にあたりー」、『東洋音楽学会会報』99、p.2
- * 2017.01 レポート「保存修復専攻とともに音楽研究の原点をつくる」(京芸で、日本の伝統音楽に触れる vol.06)、京都市立芸術大学広報誌『京芸通信』vol.20、p.11

- * 2016.09.01 インタビュー編集「設立七十五周年記念演奏会に向けて」、『関西常磐津協会機関誌 つどい』45、pp.1-3
- * 2017.01.31 キャプション執筆・写真編集「設立七十五周年記念演奏会フォトギャラリー」、『関西常磐津協会機関誌 つどい』46、pp.1-3
- * 2016.10.01 監修「雅楽ってなあに?」、『月刊京都』783号(2016年10月号)、pp.50-51
- * 2017.02.22 項目執筆「常磐津若音太夫」、伝統歌舞伎保存会編『平成28年版 歌舞伎に携わる演奏家名鑑』、伝統歌舞伎保存会、p.224
- * 2017.02.03 展覧制作・パネル解説執筆(共著)「特別展観：常磐津正本の修復と書誌的研究—保存修復専攻とともに音楽研究の原点をつくる—」、日本伝統音楽研究センター(展示ギャラリー)

◆口述活動

- * 2016.08.02 構成・進行・お話「古典芸能キックワークショップ」、滋賀県文化振興事業団『夏休み1day体験：浄瑠璃』、滋賀県立文化産業交流会館
- * 2016.09.17 構成・進行・お話「未来への継承：常磐津そして三味線—祇園で常磐津節を体験しよう—」、京都和文華の会主催、常磐津都会稽古場
- * 2017.02.12 構成・進行・司会「長唄の形と道—立誠校で今藤政太郎客員教授にきく—」、日本伝統音楽研究センター第46回公開講座、元・立誠小学校(京都市)
- * 2016.07.30 コメンテーター「田邊尚雄賞受賞記念講演：時田アリソン」、東洋音楽学会第273回定例研究会、同志社女子大学今出川キャンパス
- * 2016.08.04 構成補佐・お話「昭和の関西歌舞伎の音楽を聴く」、平成28年度第4回伝音セミナー、日本伝統音楽研究センター
- * 2016.10.03 お話「常磐津節と長唄 その相違点」(杵屋浩基と)、長唄喜楽会企画・主催『長唄喜楽会番外編：長唄VS常磐津節—長唄と常磐津節の掛合による作品二題—』、京都芸術センター大広間
- * 2017.02.03 ギャラリートーク・司会「特別展観：常磐津正本の修復と書誌的研究—保存修復専攻とともに音楽研究の原点をつくる—」、日本伝統音

楽研究センター(展示ギャラリー)

- * 日本伝統音楽研究センター共同研究「豊後系浄瑠璃の史料と伝承—常磐津節を中心に—」研究代表者(詳細別掲)
- * 毎月開催 勉強会「正本を読む会」座長

◆教育・講義

- * 2016.05~09 でんおん連続講座C「常磐津節実践入門 その3」(全10回)、日本伝統音楽研究センター
- * 2016.11~2017.03 でんおん連続講座F「常磐津節実践入門 その4」(全8回)、日本伝統音楽研究センター
- * 前期 音楽学特殊研究h、京都市立芸術大学大学院音楽研究科
- * 後期 音楽学特殊研究i、京都市立芸術大学大学院音楽研究科
- * 前期・後期 日本伝統音楽演習c、京都市立芸術大学大学院音楽研究科
- * 前期 音楽学特講h、京都市立芸術大学音楽学部
- * 後期 音楽学、京都市立芸術大学美術学部
- * 後期 京都文化学基礎演習IV、京都府立大学文学部
- * クラブ指導「常磐津部」、京都市立芸術大学・同大学院

◆調査・取材

- * 平成28年度京都市立芸術大学特別研究「常磐津節における新出稀観正本の修復保存と翻刻」研究代表者
- * 文化庁補助事業「常磐津節演奏者の経歴に関する調査」(常磐津節保存会)
- * 常磐津節ほか三味線音楽の伝承・演奏に関わる実態調査(国立劇場・国立文楽劇場・京都南座・大阪松竹座・歌舞伎座・関西常磐津協会ほか)
- * 常磐津節演奏者個人蔵の記録・譜本・音源資料等の調査
- * 詞章本出版物(近世版本)等の書誌調査およびデータ作成

◆演奏活動(常磐津節浄瑠璃方、芸名：常磐津若音太夫)

- * 2016.05.29 常磐津節「三世相錦繡文章」より「福島屋店先」「洲崎堤道行」「三社祭祀：大詰」、常磐津協会70周年記念演奏会、国立小劇場

- * 2016.07 常磐津節（歌舞伎）「由縁の月」「芋掘長者」、七月大歌舞伎、大阪松竹座
- * 2016.07.31 常磐津節「将門」（三味線）、関西常磐津協会主催『第1回常磐津研修発表会』、大阪市中央会館和室
- * 2016.08.02 常磐津節（ワークショップ）「雷船頭」ほか、滋賀県文化振興事業団「夏休み1day体験：浄瑠璃」、滋賀県立文化産業交流会館
- * 2016.09.17 常磐津節（演奏とワークショップ）「釣女」ほか、京都和文華の会主催「未来への継承：常磐津そして三味線—祇園で常磐津節を体験しよう—」、常磐津都会稽古場
- * 2016.10.03 常磐津節（長唄と掛合）「瓢箪鯨」「晒女」、長唄喜楽会企画・主催『長唄喜楽会番外編：長唄 VS 常磐津節—長唄と常磐津節の掛合による作品二題—』、京都芸術センター大広間
- * 2016.10.08 常磐津節「三世相錦繡文章：極楽浄土の段」、『邦楽百番』、NHK-FM
- * 2016.11.27 常磐津節「初恋路千種濡事：土手場」「三世相錦繡文章」より「三社祭礼：夢覚め、大詰」、（舞踊）「永寿松竹梅」「子宝三番叟」、関西常磐津協会主催『関西常磐津協会設立七十五周年記念演奏会』、国立文楽劇場
- * 2016.12 常磐津節（歌舞伎）「吉田屋」、吉例顔見世興行、京都先斗町歌舞練場
- * 2016.12.07 常磐津節「新山姥」、『邦楽のひととき』、NHK-FM
- * 2017.02 常磐津節（歌舞伎）「三人形」、二月花形歌舞伎、大阪松竹座
- * 2017.02.02 常磐津節「三保の松」「三世相錦繡文章：十万億土の段」、常磐津節保存会主催『第2回伝承事業成果発表会』（文化庁補助事業）、京都芸術センター
- * 2017.03.29 常磐津節「うつぼ猿」（弾き語り）、関西常磐津協会主催『第2回常磐津研修発表会』、大阪市中央会館和室

◆委員・役職等

- * 文化庁 次代の文化を創造する新進芸術家育成事業（伝統芸能、伝統工芸、文化財保存技術）審査委員
- * 文化庁 伝統音楽普及促進支援事業審査委員

* 京都市芸術文化特別奨励制度審査委員会専門委員会委員

* 京都市五感で感じる和の文化事業検討委員会委員

* （一社）東洋音楽学会理事

* フェニックス・エヴォリューション・シリーズ選考アドバイザー

* 京都和文華の会理事

〈学内〉

* 施設整備に関する会議 副座長

* 広報委員会委員、情報管理委員会委員

◆所属学会等

* （一社）東洋音楽学会、楽劇学会、藝能史研究会、歌舞伎学会、国際浮世絵学会、洋学史研究会

* （一社）関西常磐津協会、常磐津協会

武内恵美子

◆著作活動

* 武内恵美子「弘前藩主の楽」『日本伝統音楽研究』第13号（京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター）pp.1-15（206-222）

* 笠谷和比古編『徳川家康 その政治と文化・芸能』（宮帯出版社、2016）「徳川家康と雅楽—元和元年二条城舞楽上覧の意味するもの」pp.286-305

* 武内恵美子「浦上玉堂と琴・催馬楽」『浦上玉堂と催馬楽～江戸時代の催馬楽と『玉堂琴譜』の催馬楽・復元比較～』第47回公開講座配布資料、（京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター、2016）pp.15-25。

* 武内恵美子「日本の琴」武井欲生監修『古琴 生風 流入門編』（日本古今振興会、2016）pp.6-7。

◆講座・講演・口述活動（実演つきを含む）

* 2016.06.10 Theory and Practice of Music for the Samurai Class During the Edo Period: the case of Hirosaki Domain. "Music as Intellectual History: A Study of Sound, Music, and Society from Early Modern to Modern Japan" ASPAC 2016, California State University, Northridge

* 2016.06.25 The Sekiten Music: a

comparison between Kyoto Gakuso and Hirosaki Domain Gagaku band. "Tohoku, Kyoto, and the Dialectics of "Japanese Culture" AAS in Asia Kyoto 2016, Doshisha University Kyoto, Japan

- * 「玉堂琴譜の再現」2016年度第5回伝音セミナー、京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター
- * 2016.10.30 第45回公開講座「雅楽の道と形 唐代雅楽と日本の「雅楽」」企画・構成・司会・座談会聞き手
- * 2016.11.13 「礼楽思想の諸相」日本音楽学会第67回全国大会、シンポジウム、コーディネーター、中京大学名古屋キャンパス
- * 2017.01.20 「儒教・道教と琴」ICU宗教音楽センター
- * 2017.03.05 第47回公開講座「浦上玉堂と催馬楽～江戸時代の催馬楽と『玉堂琴譜』の催馬楽・復元比較～」企画・構成・司会・講演・演奏
- * 2017.03.24 山東大学芸術学院にて講演「日本の儒学と楽思想の展開」

◆教育・講義

- * 日本伝統音楽演習b（前期15回、後期15回）、京都市立芸術大学大学院音楽研究科
- * 原典購読（前期15回）、京都市立芸術大学大学院音楽研究科
- * 日本音楽史 京都市立芸術大学音楽学部
：2016.04.01-09.30 京都文化学基礎演習Ⅳ、京都府立大学文学部
- * 2016.06.17-19 伝統文化実践Ⅱ -2（伝統邦楽2）a 京都造形芸術大学
- * 2016.12.19 関西学院大学 総合G「上方歌舞伎の歴史と音楽」関西学院大学上野原キャンパス
- * 2016.01.28 連続講座G「京都の琴2」第1回 京都市：京都市立芸術大学新研究棟7階合同1
- * 2016.02.04. 連続講座G「京都の琴2」第2回 京都市：京都市立芸術大学新研究棟7階合同1
- * 2016.02.11 講義 連続講座G「京都の琴3」第3回 京都市：京都市立芸術大学新研究棟7階合同1

◆調査・研究活動

- 基盤C「江戸時代の藩校における音楽教習・楽実践から楽思想構築に至る楽文化の総合的研究」（課題番号：16K03022）（代表）
- 基盤B「近代移行期における「音」と「音楽」—グローバル化する地域文化の連続と変容—」（課題番号：15H03232）（分担）
- * 2016.04.15-04.18 上海音楽学院、古楽譜国際シンポジウム出席
- * 2016.06.30-07.01 上海音楽学院、趙維平氏と公開講座に関する打ち合わせ
- * 2016.07.22-25. 東京、国会図書館、国文学研究資料館調査
- * 2016.08.25-29 台湾中央研究院 ICTM 出席
- * 2016.09.03-05 青森中央学院大学、ひらめきときめきサイエンス「音楽で学ぶ青森の近代—幕末明治の音楽を体験しよう—」講演、演奏および弘前図書館調査
- * 2016.09.24-25. 岡山県立美術館、「文人として生きる 浦上玉堂と春琴・秋琴 父子の芸術」記念シンポジウム 参加
- * 2016.11.05-06 お茶の水女子大学 東洋音楽学会全国大会 出席
- * 2016.11.12-13 中京大学 日本音楽学会全国大会 出席
- * 2016.02.16-18. 東京 学芸大学、公開講座打ち合わせ、国会図書館調査
- * 2017.03.22-26 山東省済南、山東大学芸術学院と交流、講演、曲阜調査。

◆委員・役職等

- * ハラスメント防止対策委員会委員
- * 機関リポジトリ運営委員会委員
- * 施設整備作業部会委員
- * 将来構想委員会委員
- * 情報管理委員会委員長
- * 紀要編集委員会副委員長

◆対外活動

- * 東洋音楽学会機関誌編集委員会委員（2016年9月まで）、関西支部委員（2016年10月より）
- * 京都造形芸術大学非常勤講師

- * 京都府立大学非常勤講師
- * 関西学院大学非常勤講師
- * 文化庁芸術祭執行委員会審査委員（音楽部門）

◆所属学会等

日本音楽学会、東洋音楽学会、情報処理学会人文科学
とコンピュータ研究会、弘前大学史学会、名古屋芸能
文化会、楽劇学会

修士課程日本音楽研究専攻は、当センターの環境の中で日本音楽について専門的に学ぶことができるコースとして2013年度に開設し、2016年度で4年目を迎えました。現在(2016年度)、3人の院生、3人の研究留学生が在籍し、それぞれが自身のテーマで資料やフィールドワークをおこない論文執筆にむけて日夜努力しています。

今年度からは、インターンシップを本格的に始動させ、新内節伝承者へのインタビューや名古屋の能楽囃子方藤田流能管演奏者の稽古を希望する学生がこの制度を利用しました。また、これまで外部の研究者のみを招聘し組織していた当センターのプロジェクト研究・共同研究や、もっぱら伝音センタースタッフが講師をつとめてきた各種市民講座に学生が主体的に参加しました。それら旧来の伝音の活動が、学生にとっての実践的学びの場として機能しはじめています。



ゼミのようす



京都 祇園祭り見学



奈良 野迫川盆踊り参加

日本伝統音楽研究センター研究紀要

『日本伝統音楽研究』

『日本伝統音楽研究』は、京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センターの研究紀要として同研究センターが発行する、年刊の学術刊行物である。

掲載内容は、日本およびその関連諸地域の伝統音楽・芸能に関する、論文・研究ノート・調査報告・資料紹介等である。

執筆者は、当研究センターの所員ならびにセンターが承認した研究者とする。

投稿には査読を実施する。

投稿に関する委細は、別途、「投稿規定」によって定め、周知する。

日本伝統音楽研究センター学術委員会

(平成 29 年度:田鍬智志、竹内有一 [委員長]、武内恵美子 [副委員長]、時田アリソン、藤田隆則、山田智恵子)

